

Title	江戸・明治期における小語彙集つき書簡作法書・その3
Sub Title	Manual of letters with small vocabularies
Author	関場, 武(Sekiba, Takeshi)
Publisher	慶應義塾大学言語文化研究所
Publication year	2025
Jtitle	慶應義塾大学言語文化研究所紀要 (Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies). No.56 (2025. 3) ,p.73- 137
JaLC DOI	10.14991/005.00000056-0073
Abstract	本稿の表題は「江戸・明治期における小語彙集つき書簡作法書・その3」であるが、前回のそれが「軍人用文」で終わったため、その関連書を追っていくうちに、日清・日露戦争から始まって、太平洋戦争関連の著作を取り上げるところとなり、いわゆる時局色の濃いものとなった。軍人用文、式辞弔祭慰問文から間々作例・文例を紹介したが、筆者として勿論それらを肯んずるものではない。結果として2度とあつてはならぬ、歪んだ当時の社会状況の一端を紹介するところとなった。恣意的に俎上に挙げたものは明治物を含め69点。後半は通常の作文作法書が中心である。管見に入ったもので、今日、原本のかたちを元のまま保っているものは少なく、箱やカバーの有無を正確にお伝えすることは、残念ながら無理であった。その点を諒とせられたい。
Notes	論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069467-00000056-0073

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

江戸・明治期における 小語彙集つき書簡作法書・その3

関 場 武

要旨

本稿の表題は「江戸・明治期における小語彙集つき書簡作法書・その3」であるが、前回のそれが「軍人用文」で終わったため、その関連書を追っていくうちに、日清・日露戦争から始まって、太平洋戦争関連の著作を取り上げるところとなり、いわゆる時局色の濃いものとなった。軍人用文、式辞弔祭慰問文から間々作例・文例を紹介したが、筆者として勿論それらを肯んずるものではない。結果として2度とあってはならぬ、歪んだ当時の社会状況の一端を紹介するところとなった。恣意的に俎上に挙げたものは明治物を含め69点。後半は通常の作文作法書が中心である。管見に入ったもので、今日、原本のかたちを元のまま保っているものは少なく、箱やカバーの有無を正確にお伝えすることは、残念ながら無理であった。その点を諒とせられたい。

はじめに

本紀要前々号54号の拙稿その2では、その1に続けて 26) 文寶用文字盡大成から、42) 中川柳涯・軍人用文までを挙げた。したがって今回は 43) から始めるということになるが、その前に補訂すべき個所がある。すなわち前稿 27) 天明版「<書札大宝>文海用文萬字宝鑑」の項で、収録されている「がくしやのことばづくし學者卮言盡」(89語)を取り上げ、「部類として立ててあるのは珍しい」としたが、これは、大江資衡著、明和3年版の「がくしやのことば間合早学問」巻下にある「學者卮言」(94語)から来たものとすべきである。両者間に項目数の違いがあるが、排列順はほぼ同じであることもそれを証する。小生の論考は、その殆どが手元

にある資料のみに基づくもので、悉皆調査などとは程遠いものであるが、今回もその傳で不正確な情報を流してしまった。お詫びとともに訂正する^(註1)。ちなみに軍人用文のたぐいは、例えば国立国会図書館整理部編『国立国会図書館所蔵 明治期刊行図書目録 第4巻 語学・文学の部』(1974年3月)に112点をあげている。以下小生が掲げるのは69点。必ずしも小語彙集を伴っているものではない。(＊引用文中、過激かつ差別的な文辞・表現がまま見られる。小生はそれを肯ずるわけでは決していないが、資料の紹介をこととする本稿の目的からそのまま掲載した。なお、原文にあるふりかなは、その殆どを割愛し、活字のポイントや行数も、一書の中に混在していることが多いので、触れなかった。また奥付の版元名や売捌所名には振替や電話番号を附してあることが多いが、それも省略した。必要な場合、改行は／で示した。)

I

43) 日本軍人用文

B6判 1冊

表紙：薄灰青色で戦闘の図と軍船の図。上部に右横書きで「陸軍中将正三位三好重臣公題辭、陸軍教授正七位内藤耻叟題辭」、その下に「内山正如編纂／日本軍人用文」とアリ。背は書名と「東京博文館蔵版」、後ろ表紙に鷲の社章と「東京博文館發兌」、ローマ字表記の社名およびTOKIO。

扉：薄桃色紙に飾り枠、タテ三ツ割で、右に「陸軍中将＜正三位勲一等＞子爵三好重臣公題辭、陸軍教授正七位内藤耻叟君題辭、内山正如編纂」、中央に「日本軍人用文全」、左に「東京・博文館蔵版」。

遊び紙1葉を置いて折り込みで明治辛卯(24年)3月の重臣および耻叟の題辭。次いで明治天皇夫妻、皇太子、「維新之元勲」(岩倉具視公、大久保利通公、三條實美公、木戸孝允公、西郷隆盛公)、「三大将二大臣」(陸軍大将彰仁親王殿下、陸軍大将山縣有朋公、陸軍大将熾仁親王殿下、陸軍大臣大山巖公、海軍大臣樺山資紀公)の肖像、宮城、熊本城、名古屋城、大阪城の4城と扶桑艦の図像、「大日本國陸海軍配置概圖」(色刷)、赤字で明治5年壬申

11月28日の詔書、同15年1月4日の勅諭、皇室の名簿を載せる。

自序：明治辛卯孟春 著者識」。凡例。

内題：日本軍人用文／内山正如著」。柱に内容の指標とノンブルあり。504頁。

刊記：明治24年5月9日印刷、明治24年5月10日出版、正価金30銭／版權所有／編輯兼発行者 内山正如・神田区南神保町2番地、印刷者 内藤祐・京橋区元数寄屋町1丁目1番地、発兌元 博文館・東京市日本橋区本石町3丁目16番地」。奥付ウに博文館発行圖書大賣捌所、博文館発兌圖書目録」。大売捌所は、大坂・吉岡平助、梅原龜七、柳原喜兵衛～秋田・成見清兵衛、青森・鎌田書店、山形・五十嵐太右衛門の35名。末の博文館發兌圖書目録は本書を含む48点を掲げる。

日本軍人用文目次：日用訪問文（新年賀状～海外在留ノ友人ニ送ル状）、日用報信文（友人へ入営ヲ報スル状～病氣ニ付出校ヲ報ス、復状）、日用雜事文（兵学校入学ヲ勸ム状～病家ヲ訪フ状、復状）、尺牘祝祭文（凱戦ヲ祝スノ書～前原一誠ニ送ル書＜関口隆吉＞）、記事論説文（八王子城墟ノ記～表忠碑文）、内外英傑伝（大村益二郎伝～該撒伝）、世界大戰記（麻拉遜ノ戦～白露滅亡史）、報告文及論告文（戦場報告文其一～華聖頓米軍ニ論告スル文）、内外各國軍事統計、海陸軍学校規則、陸海軍諸学校教官、陸海軍将校及職員一覧」、日本軍人用文目次終」。

鼈頭目次：熟語類纂 鳳曆、祥曆、寶曆、昭代に始まり内外格言、名家詩集、名家歌集、英雄逸談、陸海軍官制、陸軍士官学校官制…一年志願兵條例抜粹、鎮守府官制、新體詩歌集と続き郵便條例摘要で終わる。末に鼈頭大尾、日本軍人用文目次畢とアリ。内外格言は、那破翁語に始まり、名家歌集は、武田信玄、豊臣秀吉、本居宣長、水戸光圀、林子平、吉田松陰らのもの。

44) 軍人文鑑

B6判 1冊

表紙：薄緑と黒で「軍人文鑑 全」の書名と小銃、錨、船、喇叭の図。背は「軍人文鑑 全 東京・厚生堂蔵版」。後ろ表紙は旭日旗、大砲等の図と「厚

生堂出版」の版元名。

巻頭に赤で明治15年1月4日と明治28年5月13日の勅諭。

序：明治21年4月 高橋勿堂識」、軍人文鑑凡例：明治21年4月 著者識」。

軍人文鑑目次：日用文（現役當籤を在隊の友人に報す～譯本普法戦紀借讀の礼状）、尺牘文（友人ニ與ヘテ戦ヲ論スルノ書～兵役中ノ人ニ與フ）、記事文（不忍池競馬ヲ觀ル～日光ニ至ルノ途上ヨリ人ニ贈ル）、論説文（馬上政策～尺蠖ノ説）、祝文（聖駕兵營ニ臨幸セラル、ヲ祝ス～某友ノ新婚ヲ賀ス）、祭文（楠公ヲ祭ル～弟ヲ祭ル）、報告文（海岸防禦準備整頓報告～暗語ヲ先隊ノ士官ヘ告ケ旅團本部ヘ復命報告）、尚武論（尚武論第一総論～全第十結論下）、目次畢。

内題：軍人文鑑／北越・相澤富蔵著」、尾題：軍人文鑑畢」。295頁＋奥。柱下方にノンブル。

*文例末上欄外等に評語を附す。例えば前に出した日用文・現役當籤を云々については「評 志氣アリ」、記事文・不忍池競馬ヲ觀ルについては「評 極力模写萬馬皆生」とアル。

刊記：明治21年4月19日出版、明治21年6月19日再版…明治28年7月5日11版、明治32年9月30日12版／定価金50銭／著作権所有／著作兼発行者 相澤富蔵・東京市京橋橋(ママ)區南傳馬町1丁目1番地、印刷者 北澤久太郎・東京市京橋區中橋和泉町1番地、発兌 厚生堂・東京市京橋區區(ママ)南傳馬町1丁目1番地、印刷所 厚生堂印刷部・東京市京橋區和泉町」。

45) 陣中之書簡

B6判 1冊

表紙：薄青地に黄色でスコップを握る右手と書名。背は書名と「全、綾部野圃編」、後ろ表紙は白地に書棚の図とKinkōdōの版元名。

扉：綾部野圃編／陣中之書簡／金港堂書籍株式會社」。

序：扉ウに赤字で明治36年7月 やほ」。次いで赤字で明治28年5月13日御名御璽とある詔勅。そして例言（明治36年7月日 野圃識）に移る。

本書は明治二十七八年戦役に従軍せし軍人諸氏が、当時出征の際、或

は戦地等より発したる書簡を主として蒐めたるものなり。本書を編するに方りその順次は之をイロハ順に取り、順中の次第は死者を先きにして現存者を後に定めたり、これ編者が死者に対して聊か敬意を表したるに出でしものにして、他に意あるに非ず。

云々とある。「巻末に附載せし明治二十七八年戦役日誌は、先年編者が編成したるものを取捨したるもの」の由。参考になる。

陣中の書簡目録：1、對敵中の新年（石黒忠熙）、2、家計には頓着致さず（伊東満嘉記）、3、一時も早く戦場に立たん（岩田太一）…39、戦闘は千日の坐禅に勝る（逸名）、40、袁家屯より（逸名）、附録（第1）：41、勦降書（伊東祐亨）、42、旅順の陥落（西寛二郎）、…48、訣辞（大熊鵬）、49、戦時の艦内（逸名）、附録（第2）：明治二十七八年戦役日誌（綾部野圃編）。目録末に「槩とりて月見るたびに思ふかないつか屍の上にてるやと」の一首アリ。跋（寺家村朔北）。252頁＋奥。

刊記：明治36年7月25日印刷、明治36年7月30日発行／編者綾部野圃／著作権所有・定価金35銭／日本橋区本町3丁目17番地・発行者兼印刷者 金港堂書籍株式会社／代表者 右社長 原亮一郎・下谷区龍泉寺町414番地。ウに「＜最近＞世界海軍力一斑」、慶應義塾譯「＜独立自営＞大國民」等8点の広告アリ。

*掲載文の前に、それぞれに就いて由来の説明があり、末に編者野圃の感想・評語を附す。

46) <軍事摘要>軍人文範

B6判 1冊

表紙：青、朱、橙色で飾り枠等。「陸軍大臣御認可 尚武會編纂／<軍事摘要>軍人文範／<版權所有>東京・松榮堂発行」。背は書名に「全」と松榮堂発行」。

扉：桃色紙。続いて明治5年壬申11月28日の詔書、同11年1月28日の太政官・徴兵告諭、同15年1月4日の勅諭、讀法、明治27年8月1日の宣戦の詔勅、同28年4月21日の征清終局の詔勅、同28年5月13日の勅諭、皇室並皇族

一覧、陸軍軍人階級一覧表、海軍軍人階級一覧表、色刷りの勲位徽章、日本帝國旗章、陸軍各兵科定色、袖章、袴、襟章等、正剣及軍刀、歩兵村田銃分解図アリ。また、叙勲ノ種別、軍隊内務書、陸軍武官階級等を、頭書を含めて記載する。

緒言：明治28年10月 尚武會謹述」

＜軍事摘要＞軍人文範目次：第1兵時門（徴兵検査期日を在京の友人に報する文＜其1＞～征清終局の大詔に感泣して子弟を戒むる文、2^{しゆくが}賀祝^{もん}(ママ)門、3弔慰門、4問候門、5寄贈門、6誘引門、7貸借門、8謝礼門、9謝絶門、10謝罪門、11送致門、13(ママ)招聘門、13忠告門、14勸励門、10(ママ)質問門、15依頼門、16催設門、名家尺牘、＜軍事摘要＞軍人文範目次終」

＜軍事摘要＞軍人文範下編目次：頌表之部、祝賀之部、送迎之部、祭文之部、勧誘之部、感謝之部、恤兵之部、建議之部、慰問門、附録：記事門。

内題：＜軍事摘要＞軍人文範上編（下編）／尚武會編纂」。尾題：＜軍事摘要＞軍人文範終」。

（上）416頁、（下）92頁、計508＋奥。

刊記：明治28年11月13日印刷、明治28年11月22日発行、同32年11月15日5版／軍人文範／版權所有／編纂者 尚武會、発行者 東京市日本橋区橋町1丁目1番地・大草常章、発行所 東京市日本橋区橋町1丁目1番地 松榮堂書店、印刷者 東京市日本橋区新和泉町1番地・瀧川民治郎、印刷所 東京市日本橋区新和泉町1番地・今古堂」。

*上編62～196頁の鰐頭に、柱に「用語熟字解」とあるだけでイロハ順・フリカナ・意味付きの熟字が載る。一^{いちいん}印：ひとつのいん、一^{いつそう}層：ひときわ～^{すいふん}醉^{すいちう}忿：ゑふていかる、醉中：よひのなか」。

*また下編鰐頭に「兵語」としてイロハ順の語彙が並ぶ。イ、井ノ部：^{ヘイ}一等^{ソツ}兵：^{ハンハウリヤク}上等兵ト二等兵ノ間ナリ、一等卒：同上、一般方略：^{スイシ}フツウノテダテ～スノ部…^{スイエイ}出師：^{スンコウ}イクサヲダス、水泳：ヲヨギ、寸功：スコシノテガラ」。

47) ＜陸海＞軍人用文 附祝文演説資料

文庫判 1冊

表紙：暗緑色クロス装。金文字で「陸海軍人用文／附祝文演説資料」の書名。

扉：嵩山堂編纂／陸海軍人用文／附祝文演説資料／東京・嵩山堂発行」。

巻頭に赤字で明治15年1月4日の「勅諭」と讀法10頁。

自序：明治37年9月4日遼陽陥落ノ公報ニ接シタル時欣然之ヲ識ス 著者」。

目次：第1章 文法、2 書翰文：平時門、戦時門、3 作文、4 演舌、5 軍人吊祭文、附 軍人作文熟語字典：頭字イロハ順、意味説明無し。い部：威嚇砲撃、威力偵察、威声震響～す部…少シク辟易シ、数回ノ敗衄ニ、数回ノ戦没ハ大ニ兵数ヲ減少シ」、附録終」。

内題：＜陸海＞軍人用文／附祝文演説資料／嵩山堂編輯局編輯」。

404頁＋奥。柱に指標とノンブルあり。

刊記：明治37年11月1日印刷、明治37年11月9日発行／著作権所有／陸海軍人用文／定価金40銭／著作兼発行印刷者 東京市日本橋区通1丁目17番地・青木恒三郎、印刷所 大阪市西区新町北通1丁目65番邸・嵩山堂印刷部、発行所 大阪市東区心齋橋筋博労町角・青木嵩山堂、発行所 東京市日本橋区通1丁目角・青木嵩山堂、売捌所 勢州四日市市堅町・嵩山堂支店」。ウラに「戦捷の大日本國民は見よ」として、「＜日本＞陸軍軍人必携」、「＜日本＞海軍軍人必携」の内容案内付き広告アリ。

架蔵本には「第九中隊第一隊 関根房次郎持」の署名アリ。

48) 軍人用文（外：＜帝國陸海＞軍人用文）

袖珍本（タテ12.6×ヨコ9.2cm）1冊

表紙：朱で模様、中央に右ヨコ書きで「＜帝國陸海＞軍人用文」、／東京文陽堂発行」。

背：＜帝國陸海＞軍人用文 文陽堂発行」。

後表紙：飾り枠内に「＜兵營後日物語＞おぼろ月夜」、「＜日露交戦＞勇壯繪はがき」、「＜橋亭主人著＞兵營大氣焰」の正価、郵税付広告。

巻頭16頁に互り「勅諭」（明治15年1月4日 御名）、「讀法」アリ。

目次：＜帝國海陸＞軍人用文目録」。

●祝賀門：新年を賀する文、返信～凱旋を祝する文、●報知門：入営を報

ずる文、返信～黄海々戦の実況を報ずる文～入営後兵營の状況を父母に報ずる文、●見舞門：病氣見舞の文（其1）、返信～同僚の病氣入院を見舞ふ文、返信、●依頼門：教授を乞ふ文～兵事雜誌配達を頼む文～兵營に来るを乞ふ文、●照会門：士官学校へ入学手続問合せの文、返信～帰着の日限問合せの文、返信、●吊慰門：友人の死去を吊ふ文、返信～戦死者の遺族へ贈る文、返信、人の子の死去を吊ふ文、●謝礼門：行軍先に於て世話に成りたる礼状、返信～死去を吊はれし礼状、●送致門：托せられたる品物を送り届くる文、返信～写真を送る文、返信、●雑門：戦利品観覧誘引の文、返信～観（ママ）迎会を催す文、●祝辞門：謹んで立太子の大典を祝し奉る～頌徳表、●吊祭門：平壤戦死者を祭る文～海城招魂祭の文、●願届門：海軍兵学校生徒願、同履歴書～入営不参届。

上欄：熟語　イロハ順。イの部：位置・イルバシヨ、位卑・クラヒヒクシ～スの部：…推量・オシハカル、数回・五六タビライフ」。この後に「生辰～清潔」の21語が入る。尺牘用語：一筆、啓上、致し候～仕送り、御返し、御学文」、尺牘用語終。兵語：いの部・一等卒　兵士にして上等兵と二等卒の間にあるものを云ふ～すの部・…水兵・海軍の兵士」。 (181頁～184頁に錯簡アリ)。

内題：帝國軍人用文／東都・本多蓑笠編」、尾題：軍人用文」。296頁＋奥。頭書欄アリ。

刊記：明治35年9月25日印刷発行、明治37年10月10日第12〔版〕／不許複製／軍人用文／発行者　東京市神田区美土代町3丁目2番地・富田能次、印刷者　東京市神田区表神保町10番地・今成温平／発行所　東京市神田区美土代町3丁目2番地・書肆　富田文陽堂」。＊本書は国会図書館明治期目録に記載ナシ。

49) <陸海>軍人はがき用文

B6判　鉛版、活版　1冊

表紙：赤で旭日旗、錨、灰青色・橄欖色で小銃等の図像、黒字で「武島敏雄著、<陸海>軍人はがき用文、矢島誠進堂發兌」の書名・発行元。

扉：灰青色紙。

はじめに宣戦詔勅：明治37年2月10日 御名御璽」、勅諭：明治15年1月4日 御名、讀法」アリ。

＜陸海＞軍人はがき用文目次：勅諭、讀法、新年の賀状…觀兵式の概況を報ず…臺灣に有て日露交渉の状を問ふ…妻に訣る…軍服の直し方を頼む」。

上欄目次：條約國名、師団、旅団聯隊所在地…兵語、郵便規則概要…三体いろは、英字三体、英字五十音、名数、外國数量（貨幣、尺度、距離、斗量、衡量）、運算九々…名頭盡（いろは別）、姓氏盡（いろは別）、日用文字集（いろは別）」

兵語は意味説明アリ。隊形…攻撃、防禦…徵發、^{へいいんち}蔽蔭地森林家屋などの為め見通すことの出来ぬ土地…右岸及左岸、村落、独立家屋」、日用文字集は、^{いみ}依托たのむ、優渥かくべつにあつし、優勝～（す）…推測、^{すぬし}出師いくさをだす、炊事、吹奏」。

195頁＋奥。柱に書名とノンブル。

刊記：明治37年10月25日第十版印刷、明治37年11月1日第十版発行／＜陸海＞軍人はがき用文／不許複製／著者 武島敏雄、発行者 大阪市南区壩町4丁目211番邸・矢島嘉平次、印刷者 大阪市南区壩町4丁目151番邸・礪波伊三郎、発行元 大阪市南区心齋橋通り鹽町北へ入・矢島誠進堂書店」。

*「妻に訣る」は、「一日千秋と相待候從軍の命も今朝拝受するを得、弥明日征途に上り候、此度は實に皇国の一大事に候へば、素より生還を期せず候、たとへ萬一の事ありとも、能軍人の妻たるの本分を守り、決して悲歎あるまじく、唯双親に孝養を盡し、一子忠雄の養育相成べく頼み入り候、餘事に及の暇なく一書申遣し候以上」と、後のものに比べると穏やかなものである。

50) ＜軍人送迎＞祝辞弔祭文

B6判 1冊

表紙：黒字で書名。背は書名と「全」。後ろ表紙は鳶の模様に「一二三館」の発行元名。

巻頭にイキナリ『新編歩兵須知』の内容案内付き広告あり。ウには「一二三

館兵書目録」として3段組で52点の書名を正価・郵税付きで列挙する。

序：文学士・野々村直太郎」、凡例：浮浪庵窓下に於て、編者・漁仙誌」

目録：●送迎門 入営送別の辞」

*門名と送別の辞の間に3行分空きあり、「緒言」が入ってしまっている。入営送別の辞（入営送別会席上祝辞応用）、友人の入営を送る辞（全）～単騎遠征の某將軍を歓迎す、知事送別の詞」、

●慶賀門 頌徳表～金鷄勲章下賜を祝する辞、懇親会祝詞」、●教育門 陸軍士官学校開業式祝辞～工業学校卒業証書授与式祝辞」、●土木門 偕行社新築落成祝辞～議事堂落成式祝辞、同答辞」、●弔祭門 可児大尉を吊する文～台湾役戦死者を祭る文」。

内題：＜軍人送迎＞祝辞弔祭文 山田旭南編」、送迎門／緒言」、入営送別の辞」。尾題：祝辞弔祭文終」。上欄に「龍頭」として記事類纂、諸種の書翰文、軍人伝記を載せる。

190頁＋奥＋広告5頁。2段組。

刊記：明治37年11月25日印刷、明治37年11月28日発行、明治37年12月10日再版／不許複製／編者 山田旭南、発行者 東京市日本橋区鉄砲町13番地・栗本長質、印刷者 東京市麴町区有楽町3丁目1番地・大西鍊三郎、印刷所 東京市京橋区弓町24番地・三協合資会社／発行所 東京市日本橋区鉄砲町13番地・一二三館、発売所 東京市日本橋区箔屋町16番地・前川文栄閣」。

刊記ウラに「一二三館発行図書目録」として、「創世記注疏」～「短歌小梯」まで50点の書名と定価・郵税額を3段に挙げる。次いで薄緑色紙に「文栄閣出版及発売書目」と題し、「＜速成＞日露会話独習」、独乙ゲーテ氏原著・高橋五郎先生譯「ファウスト」、はらのや春雄「＜洋行奇談＞赤毛布」等を多く内容案内付きで紹介する。

51) 軍人用文

中川柳涯著 袖珍本（タテ7. 2、ヨコ5. 3cm）1冊

表紙：旭日旗と櫻花に錨、砲弾型枠内に「＜海陸＞軍人用文」の書名、右上に「中川柳涯著」。

軍人用文目次：祝賀文・新年賀状～凱旋を祝する文 9、慰問文・戦地の友へ～戦死者遺族の許へ 5、報信文・入營を知らす文～凱旋を報ずる文 11、依頼文・來營を請ふ文～傳言を頼む文、同上返信 5、謝禮文・見舞を謝する文～書籍の惠蔵贈を謝す文 5、照會文・書籍の代價を問合す文～歸期照會の文、同上返信 6、見舞文・病氣見舞の文～病状訪問 8の計49通。内題：軍人用文／柳涯著。表紙とも94頁＋奥。

刊記：明治38年2月18日、明治38年2月23日（軍人用文奥付）／＜著作権所有＞著作者 中川柳涯、發行者 關吉藏・東京市下谷區仲徒町1丁目6番地、發行兼印刷者 山崎暁三郎・東京市淺草區新福井町1番地。

頭書：「熟語」。イロハ順：慰問・なぐさめる、偉功・おほてがら～、垂憐・あはれみをたれる、頗る・たいそう、数多・たくさん、炊事・めしたき。338項目。次に「金言集」14、安否詞・益御機嫌能～彌御丈夫。欣喜詞・目出度奉存候～御繁昌の御儀に奉存候、接續詞・然者、陳者～隨て、處」が続く。

52) 兵隊さんの手紙と式辭

袖珍本 洋装1冊

表紙：赤クロス装。金字で「兵隊さんの手紙と式辭」の書名と、三ツ星、桜花。背は書名と「中村大尉著」。扉：赤字で「陸軍砲兵大尉・中村孝著／＜兵隊さんの＞手紙と式辭」。序：赤字。中村孝識。目次：「兵隊さんの手紙と式辭目次」

手紙の認め方に就いて、■通報文：在營の友人に徴兵の当籤を（封書）、同（端書）…満期帰營を父に（封書）、満期除隊を友人に（端書）、■消息文：入營後の消息を父に（封書）…軍艦安着を父に（封書）、■謝礼文：入營見送を父に（封書）…金圓を借りたるを（封書）、■見舞文：病氣見舞を父に（封書）…水害見舞を親戚に（端書）、■招待文：軍旗祭に友人を（封書）…満期除隊の祝宴に（端書）、■依頼文：送金を父兄に（封書）…認印の注文を（端書）、■照会文：再役の可否を父兄に（封書）…書籍の売価を友人に（端書）、■謝絶文：友人を（ママ、本文は「の」）招待を…來訪面会を（端書）、■慶弔文：新年祝賀を父に（封

書) …親戚の死を悔む(端書)、■勸告文：再役志願を友人に(封書) …海軍志願兵となるを友人に(封書)、■送迎其他式辭：入営送別會の謝辭…戦死者追悼會式辭」。尾題「目次(終)」の前に、「裏面の附録見落す勿れ手紙重用語あり」と記す。

附録：手紙必用語一斑(かな文字のくづし方、偏と冠の名称、字画相似て意義の異なる文字…封緘の文字…人倫の文字)。内題：兵隊さんの手紙と式辭／中村孝著」。357頁＋奥。

刊記：大正5年11月9日印刷、大正5年11月15日発行、大正6年1月9日再版 …大正6年9月21日5版／不許復(ママ)製／兵隊さんの手紙と式辭、定価金30銭／著者 中村孝、発行者 東京市浅草区瓦町28番地・山崎暁三郎、印刷者 東京市神田区佐栢木町21番地・瀬下三郎／発行所 東京市浅草区瓦町28番地・國華堂書店」。

53) <即座に應用出来る>祝賀弔祭挨拶の仕方(外)

B6判 箱入り1冊 箱：右横書きで書名と著者名。

表紙：濃緑青色布目地紙。背に金字で書名と著者名。箱：右横書き 書名・著者名、出版社名、後ろにTOKYO NTS OSAKAとローマ字表記。定価1円。扉：濃紺刷り。背：金字、「後藤亮一著／<即座に應用出来る>祝賀弔祭挨拶の仕方／<東京大阪・日本圖書出版社」。序：著者識」。目次：演説に入る道、演説の練習法、ゼスチュアの洗練、祝賀の部：今上陛下御即位式に於ける壽詞・田中義一…商店開業披露宴挨拶・店主、右の祝辭・來賓」、婚姻・誕生・還暦の部、発会式・記念式・記念祭の部、起工式・落成式の部、銅像・記念碑・表彰碑除幕式の部、歡迎と送別の部、就任・辞任の部、表彰式・褒賞授与式・慰労会の部、卒業式・同窓会の部、運動会の部、博覧会・共進会・展覧会の部、赤十字・愛国婦人会・少年団・青年団の部、入営・除隊・軍旗祭・在郷軍人会の部、弔詞と追悼文の部、新年会・忘年会・懇親会の部」。400頁＋奥。刊記：祝賀弔祭挨拶の仕方／昭和10年4月20日印刷、昭和10年4月25日発行、編者 後藤亮一、発行者 東京市神田区豊島町9番地・山崎敬三、印刷者 東京市神田区豊島町3番地・藤井章次郎、発行所

大阪市西区阿波堀通3ノ35番地、東京市龍之川区西ヶ原町83番地・日本圖書出版社／定価金1円 送料12銭」。

54) <出征將士と銃後>軍人式辞と挨拶集

袖珍本 1冊

昭和13年7月20日初 16年10月5日八版。カバ：色刷り 銃を握った右手の図と書名。背：書名。表紙：菅草色クロス装、右横書きで書名と図。背：書名。扉：赤字で「軍人式辞と挨拶集」。内題：<出征將士と銃後>軍人式辞挨拶集」。240頁。刊記：軍人式辞挨拶集 (㊟定価金40銭／昭和13年7月15日印刷、昭和13年7月20日發行、昭和16年10月5日八版／不許複製／著者 進藤進、發行者 東京市日本橋區両國44・湯淺脩一、印刷者 東京市神田區神保町3ノ23・塚田十五郎／發行所 東京市日本橋區両國44番地・春江堂」。目次：1、出征將士激励歓送の辞、2、激励歓送に対する出征將士の謝辞、3、武運長久・戦捷祈願の辞、4、出征將士に送る感謝慰問の辞、5、銃後の慰問激励を謝する辞、6、白衣勇士慰問歓迎の辞、7、白衣勇士の感謝の辞、8、戦捷祝賀の辞、9、出征將士凱旋歓迎の辞、10、凱旋歓迎を謝する辞、11、戦没將士弔問の辞、12、戦没將士遺族の謝辞、13、忠魂碑除幕式の辞。*始めに【類語】として類句を挙げ、次に例文を挙げる様式をとる。例えば1の類語として、陛下の股肱國家の干城として勇躍征途に上る！正に武人の本懐と言はなければなりません○「海行かば水漬く屍、山行かば草蒸す屍…」この決意を以て勇往邁進せられん事を」等とし、7の3：例文・標題では、「再び見えて慙愧に堪えず」（戦傷將兵歡迎会に於ける謝辞）、10の3：「凱旋將士代表者の謝辞」では、「何の功もなくおめおめ生還」として

本日は私共の為にかゝる盛大な凱旋の祝宴を張られまして、お手厚き御饗応に預り、尚その上、身に余る御鄭重なる御祝辞を頂戴致し、過分のお賞めに預りまして、只々感激感謝の外はございません。今回の皇軍の大勝利は一に 天皇陛下の大稜威おほみいつに依ることは申す迄もありませんが、銃後に於ける皆様の熱烈なる御後援と、尊き戦死將士の犠牲に負ふ所亦大なるものがありまして、幾多戦友がそれぞれ重大な任務を盡した

へて、名誉の戦死を遂げられ、或は重軽傷を負はれたに拘らず、何ら目覚しい働きも出来ずにおめおめと生還致しました我々に、かゝる盛大なる歓迎の宴をお催し下さいましたことは、誠に恐縮の外はございません。

皆様の御熱誠なるお見送りを受けて征途に上りまして以来、戦場に在る日は常に一死報国を誓ひ、必ず郷土の皆様の御期待に添はんものと覚悟して居りましたが、今碌々として軍服に馬骨を包み、郷里の土を踏みまして皆様のお顔を拝しますことは、誠に申し訳ない次第であります。尤も私共は皆国家の為に死を鴻毛の軽きに比して居りましたので、卑怯の振舞などをしたことは微塵もありません。その点はどうぞ御安心願ひます。幸ひ斯く命を全うして帰りましたことは、これ全く皆様のお蔭であると感謝いたして居ります。尚、戦地に在りました際は、お心盡しの慰問品や千人針、激励文などを頂戴いたし、又留守中の私共の家族の者にまでお心付の金品を賜はり、且つ家業の上にも何呉れとなく御援助下さいましたことを、この機会を借りて謹んで御礼申し上げます。

重ねて今日は御多忙中にも拘らず、私共の為に歓迎会をお開き下され、厚く御礼申し上げて謝辞といたします。

等と述べる。

55) 兵隊の手紙文

文庫判 1冊

表紙：薄褪葉裏色地に濃紺印字。「帝國通信協会編／兵隊の手紙文 戦地から故郷から／附支那語早わかり」。扉：朱刷り。表紙と同じく書名と編者名。目次：兵隊の手紙文／目次」：

手紙の書き方、文例：入営に際して、入営祝の答礼、営内生活を知らす…出征営内の報知文、入営除隊の挨拶…陣中だより（出征兵よりの礼状、武漢三鎮攻略の勇士より、部隊長の戦死を報ず…陣中より学童へ）。文例の一部を挙げると、（勇士必死の懇願だより）として…七度死すとも八度起つて東洋平和のため、身を君国に献げんと誓ひしに、戦傷だにあらずして平病患者として病室の一隅に起臥しなければならぬ身となりし腑甲斐なさ、来る日も来

る日もベットの毛布に面を埋め、南京城に迫りつゝあらん戦友を偲んでは、たゞ男泣きに泣くのでありました…思へば十一月十八日常熱の戦闘において、雑囊にあたつた弾丸が、何故わが腹を貫通しなかつたのか。また十一月二十五日無錫攻略戦に、背負袋にあたつた一発が、何故わが胸を貫通しなかつたのか」といった具合である。

附録：支那語早分かり、短語会話集」。単語と会話：第1章・数量及度量衡、2・日常の挨拶～32・軍事語：日本軍は正義の使徒だ、我々は決して強奪しない、スパイは銃殺するぞ、彼に實をはかせよ、お前は商人に変装して軍状を偵察に來たのだ 早く自白しろ、でないと銃殺だぞ 等々、(上段を単語、下段を会話の2段に分けて例示。他書にも見える典型的な詰問の例)。附：商用数字、省名、地名など。内題：兵隊の手紙文」。225頁。柱に指標アリ。刊記：昭和14年2月20日印刷、昭和14年2月25日発行、不許複製／兵隊の手紙文、定価金40銭、送料金10銭／編者 帝國通信協会、発行者 東京市下谷区御徒町3ノ82・鈴木吉平、印刷者 東京市神田区西神田1ノ9・平賀清之助／発売所 大阪市浪速区元町2ノ106・榎本書店、東京市下谷区御徒町3ノ82・泰光堂書店」。

II

軍人用文集の中には、慰問文もしばしば収載されている。例えば明治期にも既に次のようなものがある。

56) <軍人送迎>祝辭弔祭慰問文範

B6判 1冊

表紙：枯芝色紙、「河村定静先生著／<軍人送迎>祝辭弔祭慰問文範／東京・大學館發兌」。背は書名と「東京・大學館發兌」の版元名、後ろ表紙に社名入りの王冠。

扉：桃色紙。緒言：紫色字で「…筆を日露戦争以後の事實に於ける文題のみに起し陳腐なるは一切採る所なかりし、…50章ばかりの最も必要と思はるゝものを示せり…。明治37年12月中浣 著者識」。

目次：各門ともはじめに「文體解釈」あり。送文門：愛子の入営するを送る

文…売薬行商の爲め韓地に赴く某婦人を送る文」、迎文門：満期除隊となりし某兵士を迎ふる文…敵壘に拘はれ居りし非戦闘員の無事帰朝せしを迎ふる文」、祝文門：徴兵適齢となりしを祝する文…旅順の陥落を祝する文…某大將着韓歓迎会上の祝詞」、慰問文門：徴兵検査に落籤せし友を慰むる文…満州に在りて戦争の爲め資産を盪盡せし友を慰むる文…露領にて露人の暴行に遭ひし人を慰むる文」、吊祭文門：戦友の戦死せしを吊する文…砲弾に斃れし軍馬の霊を祭る文」。

上欄目次：演説する時の心得…吊祭文を読む時の心得…祭文類語、名家吊祭文（西郷隆盛を祭る文・黒田清隆…故議官松岡時敏の霊を祭る文・有栖川宮熾親王）」

294頁＋奥＋広告3頁。柱に指標とノンブルあり。

内題：＜軍人送迎＞祝辞弔祭慰問文範／河村定静著」、尾題：＜軍人送迎＞祝辞弔祭慰問文範終」。

刊記：明治37年12月20日印刷、明治37年12月23日発行／（祝辞弔祭慰問文範）正価金25銭／著作権所有／著作者 河村定静、発行者 岩崎鐵次郎・東京市神田区鍋町21番地、印刷者 日置市二・東京市神田区錦町3丁目1番地、印刷所 小川印刷所・東京市神田区錦町3丁目1番地／發兌 東京市神田区鍋町21番地、大學館」。広告12点。

57) ＜出征將士＞祝辞弔祭文範

B6判 I 冊

表紙：灰色地紙に焦げ茶色で「三井晶史編／＜出征將士＞祝辞弔祭文範／東京・みをしへ社發行」。背も発行元を除き書名と編者名を出す。扉も背と同じ。

目次：＜出征將士＞祝辞弔祭文範目次」第1編 告諭諭旨：内閣告諭・内閣総理大臣 近衛文麿、愛国婦人会諭旨・愛国婦人会総裁 東伏見宮妃～浄土宗管長告諭・浄土宗管長 岩井智海、古義真言宗管長親諭・古義真言宗管長 高田隆心、2、大捷賀表：大捷賀表 衆議院議長 松田正久～凱旋觀兵式賀表 帝國教育會長 辻新次、3、出征將士送別會式辞—作例—、

4、戦勝祈願會祭祠、5陸海軍に送る慰問状感謝状 東郷大将への感謝状
東京帝國大學総長・山川健次郎〜保定占領謝状 朝日新聞社長 上野精
一、6、凱旋將士歡迎祝賀會式辞 東郷大将凱旋歡迎會式辞 東京市長・
尾崎行雄〜凱旋海軍將校歡迎會祝辞―作例―、7、戦捷記念會式辞、8、
戦死者追悼會弔辞、9、戦捷記念碑 招魂祭祭詞」。92頁＋奥。

刊記：昭和12年9月25日印刷、昭和12年12月15日六版発行／出征將士祝辞弔
祭文範、定価金70銭／不許複製／編纂者 三井晶史、発行兼印刷者 東京市
豊島区池袋1ノ540・みをしへ社」。末2頁広告アリ。

58) 出征兵士に送る慰問手紙文

B6判 1冊

カバ：故郷から送られて来た手紙文を嬉しそうに読む兵士と「＜出征兵士に
送る＞慰問手紙文」の書名。背も書名と「附 式辞・演説・挨拶」の副題。
表紙：灰青色地に紺字で「元文社編集部編、＜出征兵士に送る＞慰問手紙
文、附 出征兵士歓迎の式辞挨拶」。背も書名と副題。

扉：紺字で「元文社編集部編、＜出征兵士に送る＞慰問手紙文、附 出征兵
士歓迎の式辞挨拶」

自序：漢口陥落を前にして 著者識」

出征兵士に送る慰問手紙文・目次：團體の慰問文（戦捷の感謝、南京陥落に
際しての謝状＜各團體共通＞…海軍の將士へ＜青年團代表＞、意を安んじて
君國に謁せよ＜町内會＞）、肉親の慰問文（天皇陛下の御為に＜父＞、強い
兵隊さんの弟より＜弟＞）、知己・朋友の慰問文（一名の戦死者もなく＜町
會役員＞、南支の方へ御転戦＜友人＞…負傷兵を慰む＜知己＞）、一般の慰
問文（ありがたう兵隊さん＜小学生＞、兵隊さん万歳＜小学生＞…慰問袋に
添へて＜一＞、慰問袋に添へて＜二＞…白衣の勇士へ＜一＞、白衣の勇士へ
＜二＞）、銃後の赤誠（特務兵の父より、恩賜金を献上…陣中の友へ、戦死
者の遺族への弔慰文）。＊口語体に置き換えた例も挙げている。「一般の慰問
文」の「慰問袋に添へて＜二＞」は、

忠勇なる將士の皆様。邦家のためとは申しながら、炎熱百三十度の南

支に於て、暴支膺懲の聖戦に参加されて、定めて御苦勞の御事と、衷心より感謝致します。聞けば、飲料水は悪く其の上に非人道的に悪疫の黴菌などを撒布したさうで、洵に、聞くだに痛憤の念が込み上げて参ります。無かし、言語に絶した御苦闘を舐めさせられたと、遙に御推察申し上げます。何卒、此の上ともに御自愛專一に、武運目出度く御凱旋あらん日を、深く鶴首致します。

慰問袋とは名のみ、まことにつまらない品にてお恥しい次第です。どうか切めて是にて、戦塵の御退屈をお晴らし下さい。ほんの我々一家一族の、将兵諸士への御恩報じの真似ごとに過ぎません。

終に、武運長久、益々御健闘を切に御祈り申し上げます。以上。」
といった具合。

* 今手許に未使用の慰問袋の実物がある。タテ34.6cm、横23.2cmの白地のしっかりした木綿袋で、表中央に紺で大きく「慰問袋」とあり、右に赤で「祈武運長久」、左に献呈する人名等を書き入れる枠が紺であり、裏は紺、赤、黄で大きく錨と戦闘機とタンクが描かれ。貼ってあるラベルには、「〇協（格差品）／愛知第6-401号／愛知縣繊維既製品統制聯盟／登録番号No. 5098／小賣價格、税別、200」とある。これが頻りに言われる慰問袋かと感慨を覚える。

また、「銃後の赤誠」の「特務兵の父より」は、

部隊長さま。なかなか戦いはげしいさうであります、倅の晴正には出征いたす時より、天皇陛下様に捧げた生命、戦死致すは元よりの覚悟を持たしてあります。危険な所で働かして下さい。決死隊入用の時は、決死隊へ出して下さい。生きて帰村しては、世間へ顔出しが出来ません。人がみな私に、お前のむすこは特務兵であるから、こはい事はない、安心である。と申すのが、私には残念でたまりません、一合取つても武士は武士、特務兵でも軍人と私は思ひます。何卒、貴方様のお引立てで戦死させて下さい。お願いでございます。

どうぞ、手柄をさせて下さい。父としても覚悟をきめてをります。河田晴正が戦死をしたら私本年56歳ですが、出て行つてかたきをうつ覚悟でございます、どうぞ、よろしく御たのみ申し上げます。河田清松」とある。←これを以て慰問文というのであろうか？ ゆがんだ愛情である。191頁＋奥。柱に指標とノンブル。

刊記：昭和13年10月10日印刷、昭和13年10月15日発行／出征兵士に送る慰問手紙文奥附 定価金50銭送料9銭／不許複製／編者 元文社編集部編、発行者 大阪市南区島津町5番地・田中貫行、印刷者 大阪市浪速区西園手町1032・岩岡忠一／発行所 大阪市西区島津町5番地・元文社」。

59) <出征・入営・凱旋>女子慰問文 附式辞挨拶演説

小本 三五判 1冊

カバ（薄赤色の鳶に止まる黄緑の蜻蛉）。表紙：題名のほか「東京・天泉社」の版元名。背角書きに「慰問」の2字が付け加わる。

扉：書名のほかに「文学士篠原豊著」、下部に「非常時體制版」とあり。

はしがき 昭和15年3月 著者識。

目次：第1章 慰問文の作り方、第2章 家族より 1、戦地の孫へ、2凱旋は靖国神社へ、3、母より蒙疆の愛児へ、4、命惜しと思はず戦功を立てられたく～17、お父様立派なお手柄を、18、お言葉は決して忘れませぬ、19、戦傷の愛児へ、第3章 知己友人より 1、第1線に活躍する友の兄へ～13、部隊長へ」

2-17は（娘より）として

お父さま…お懐かしうございます。お手紙では○○山よりいよいよ○○方へ御進み遊ばしたのこと、もう敵の首都が陥落するのも近づいたと、内地でも大変によるこんで居ります。お父さまも戦死のお覚悟で働いてられるとのことですが、どうぞ立派なお手柄を立て、下さい。もし御戦死遊ばしたら、お母様と二人で、きつと御申しつけ通り靖国神社へおまわりして懐しいお父さまにお目にかけます。

でも成らうことなら、御無事で御凱旋あそばすやうにとお祈り申し上げ

げます。戦死するのみの忠義でなく、また手柄でもない伯父さんも申して居られました。お父様も大きな手柄をお立てになつて、立派にお帰り遊ばしませ。お母様もどんなに、それをお待ちでせう。

それにつけても憎くらしいのは支那の兵隊ですわ。どうせ負けるなら早く降参して東洋永遠の平和をつくればいいのに。ほんとに蒋介石といふ人は悪い人で憎らしい人だと思ひます。

学校は4月1日より始まりました。今度はきつと一番になります。ほんとに一番になつて見せます。

この頃お母様と御一緒に、浅草の観音様へおまゐりしてゐます。日本が勝ちますやうに、お父様が大手柄をして無事にお帰りになられますやうにと、一生懸命に拝んで居ります。観音様もきつとお父様の御身體をお守り下さるに違ひありません。

これから休みますの、お父さまもお休み、さやうなら。」

とある。涙を誘うべく作られた文辞である。

第4章 各団体代表より 1. 郷土女子青年団より～慰問袋に添へて、第5章 一般民衆より 1. 南支の兵隊さんへ、2. 宿舎の主婦より兵隊さんへ～ 8. 内地の一少女より、9. 心ときめく小学生より、第6章 戦傷病将士の慰問 1. 陸軍病院の勇士へ～ 14. 戦傷者の妻より夫の戦友へ、第7章 銃後感激の手紙 1. 雄々しき心を部隊長へ～ 8. 少女にさへこの純情、(附録) 式辞挨拶演説：第I章、演説の仕方、2、入営・入団、3、除隊、4、出征、5、凱旋、6、在郷軍人会、7、青年学校、8、弔祭、9、雑 (1. 天長節祝賀会の祝詞～ 6. 廃兵院開院式の祝詞)、10. 名家演説 (1. 入営兵士を送るの辞～ 11. 航空殉難者を弔ふ)。」

316頁＋備忘録空欄4頁

刊記：不許復(ママ)製・女子慰問文／昭和15年3月25日印刷、昭和15年3月30日第1版発行、昭和17年3月30日第5版発行／配給元 東京市神田区淡路町2丁目9番地・日本出版配給株式会社／定価金6拾8銭 著者 篠原豊、発行者 東京市神田区猿樂町2丁目8・小泉準一、印刷者 東京市神田区三崎町2丁目5ノ8・西村由太郎、印刷所 東京市神田区三崎町2丁目5ノ8・西

村印刷工場／発行所 東京市神田区猿楽町2ノ8・天泉社／日本出版文化協会々員番号119036」

60) 軍人歓送激励の挨拶<すぐ間に合ふ>式辞と挨拶集

文庫判 カバ：色刷り。日の丸の旗を打ち振り、軍人を激励する両親や子供、地元民の姿に櫻花と富士山。東京・昌文館発行。後ろ表紙に¥70の定価。

表紙 灰青色、青色印字。背に「時局下<すぐ間に合ふ>式辞と挨拶集」。扉：青刷り。題名と左下に「<東京>昌文館発行」の版元名。

目次：<すぐ間に合ふ>式辞と挨拶集 目次」。

◇出征将兵歓送激励 聖戦下の入営兵を送る辞～歓送をうけて答辞（11）、◇陣中将士へ感謝と慰問 陣中訪問の感謝慰問の辞～聖戦下の年頭に銃後へ感謝の辞（9）、◇白衣勇士歓迎と慰問 青年団代表の白衣勇士歓迎の辞～戦傷病兵の簡単な答辞（10）、◇従軍並に慰問使等の歓迎 従軍記者歓送会送別の辞～歓送をうけし慰問使答辞（10）、◇戦没将士弔辞と挨拶 慰霊祭に戦友の弔辞～従軍記者の尊き霊に捧ぐ（公爵・近衛文麿）（8）、◇戦捷祝賀 大捷祝賀会の式辞～戦捷祝賀歓喜の辞（敵都陥落）（5）、◇凱旋将士歓迎 凱旋祝賀会幹事の辞～簡単な答辞挨拶（10）、◇一般慶祝 天長節を祝する辞～店舗開業の挨拶（13）、◇追悼弔詞 軍神広瀬中佐を祭る辞～母の三回忌に（9）」、計85例。目次終。

内題：<すぐ間に合ふ>式辞と挨拶集」。 尾題：<すぐ間に合ふ>式辞と挨拶集（終）」。

226頁。＊柱に各部門の標題アリ。

刊記：昭和16年4月25日印刷、昭和16年5月1日発行／定価70銭／著作権所有／著作者 青年雄辯奨励会代表者・久保直之、発行者 大阪市西成区鞆下通2丁目32番地・益井俊二、印刷者 大阪市南区順慶町1丁目37番地・大谷末吉／發賣所 東京市下谷区仲御徒町三丁目三十四番地・昌文館」。

61) <出征兵士に贈る>赤誠の慰問文 附歓送迎の式辞挨拶

B6判 1冊

表紙：匡郭内に紺字で「帝國通信協會編／＜出征兵士に贈る＞赤誠の慰問文
一陣中便り／附歓送迎の式辞挨拶」。

扉：黄緑色紙に右横書きで書名、編者名と木の枝にとまる小鳥たちの図。

目次：＜出征兵士に贈る＞赤誠の慰問文／目次（親戚・家族の慰問文：父
よりの手紙、母よりの手紙…従兄弟よりの慰問、戦線^{をつと}の良へ）、親友・知己
の慰問文：戦場の友におくる…陣中よりの慰問礼状、團體の慰問文：同窓会
の代表者より…皇軍将士への感謝状」、一般（慰問袋等）の慰問文：尊き皇
軍将士の皆様方へ…少年の慰問の手紙」、出征を祝ふ激励の手紙：親友の出
征を祝ふ…出征兵よりの礼状」、陣中からの勇士の手紙：武漢三鎮攻略の勇
士より、部隊長の戦死を報ず…勇士必死の懇願だより」、白衣勇士の慰問
文：友の戦傷を見舞ふ…一般傷病兵に送る慰問文、戦死弔慰問の手紙：部
下の戦死を報らす手紙…戦死せし級友の父に献ぐ」、銃後感激の手紙：従軍
を願ふ…銃後への感謝と年頭の辞」、出征将兵歓送迎の挨拶：出征をおくる
在郷軍人会代表挨拶…歓送御礼の挨拶」、凱旋を祝ふ挨拶：お友だちの兄の
凱旋に…凱旋勇士の挨拶（朗読）。＊本文はここ240頁まで。241頁以下最後
の337頁まで「書翰文の作り方」が入る。巻頭に「＜ペン習字＞慰問文の書
き方」15頁が実例付きで載る。

内題：＜出征兵士に贈る＞赤誠の慰問文／附歓送迎の式辞挨拶」368頁＋奥。
柱にノンブル。

刊記：昭和14年6月20日印刷、昭和14年6月25日発行、不許複製／女子の慰
問文、定価金80銭・送料金10銭／編者 帝國通信協會 発行者 大阪市南区
順慶町1ノ45・三島源次郎、印刷者 大阪市浪速区櫻川1丁目・今西市次、
発売所 東京市浅草区壽町1ノ1・東江堂書店」。＊奥付には書名「女子の慰
問文」とある。

62) ＜出征兵士に送る＞慰問手紙の書方

B6判 1冊

カバ：鉄兜を被り嬉しそうな顔をした兵士、封筒と便箋、桜の花びら。右横

書きで書名、背にも書名。

表紙：薄水色紙に紺で匡郭と「元文社編集部編／＜出征兵士に送る＞慰問手紙の書方＜附 戦傷勇士に送る慰問文の作り方＞／元文社刊」。背は書名のみ。

扉：紺色匡郭内に表紙と同じく書名等。

目次：＜出征兵士に送る＞慰問手紙の書方／目次」

慰問文の作り方、戦地への慰問文（南支派遣軍の勇士へ＜知己より＞…マラリヤにやられたさうだね…出征せる先生へ）、傷病兵への慰問文（傷つける兄へ…野戦病院の伯父へ）、遺家族への慰問文（出征した従兄へ…散るも残るも、皇國の有り難さ）」、目次終 168頁＋奥。

刊記：昭和14年12月15日印刷、昭和14年12月20日発行／＜出征兵士に送る＞慰問手紙の書方／定価金40銭・送料9銭／不許複製／編者 元文社編集部、発行者 大阪市西区島津町5番地・田中貫行、印刷者 大阪市浪速区西園手町1032・岩岡忠一／発行所 大阪市西区島津町5番地・元文社」。巻末にある一例を挙げる。

散るも残るも：陸軍病院を御慰問申上げたときでございました。高い窓の下で、傷いた勇士たちは静かに横はつてをりました。首を動かして目礼してくださる方、病熱に昏々と睡つてをられる方、夢にうつゝに、勇士の思ひは、どこを駆け廻つてゐたことでせう。國のため散るも残るも櫻花 みな日の本の光なりけり 散るも残るも、みなお國のため。戦場の勇士と、お留守を守つてお働きの皆様とは、重い責任に少しも変わりありません。出征勇士のお留守宅をご慰問いたしますと、小さいお子様を抱へられた奥様や、働き手の御子息を召されたお母様が、一生懸命働いていらつしやるのをお見受けしますが、その御辛苦を思ふと、胸が一杯になり、心から感謝申上げるよりほかに言葉がございません。（愛國婦人會々長 本野久子）」。

*上引のように慰問文の筆者名・所属等を示している例が多い。

63) A ＜要領を得た＞＜模範＞式辞弔詞と其の挨拶 附五分間演説文例（外）

三六判 1冊

カバ：白地に茶色で模様、黒字で書名「＜要領を得た＞＜模範＞式辞弔詞と其の挨拶 附五分間演説文例」と「雄辯學會編」。

表紙：灰色地網目模様に、紺で書名と編者名。後ろ表紙に社章と¥. 60」。

扉：茶色で書名と編者名。序：編者識」。

目次：演壇上の注意と聴衆の感化、音声の注意、姿勢の注意、言語の注意、立論の順序、会場の形式、式辞祝文の朗読に就いて、

祝辞文例：1、教育勅く語下賜記念会、2、忘年会の乾盃、3、年頭所懐～105、徴兵合格祝賀会～140、郵便局開設の式辞」、弔慰祭文文例：141、名望家に対する弔詞～167、廣瀬海軍中佐を祭る文～175、西郷隆盛を祭る文、176、海軍戦死者の母を慰むる文」

＜附録＞五分間演説文例：1、恋愛の開放：恋愛は遊戯ではない。従つて恋愛を遊戯気分では味はんとして、脂粉の香に憧れ、長い袂を喜ぶ様な男があるが、さうした男には恋愛を語る資格がない。恋愛は賭博でない。…恋愛は肉ばかりの問題でもない。…恋愛は美の問題でもない。…恋愛は冒険である。…人間福祉の為に個性の伸長の為に恋愛をする。…恋愛は個性の完成である…。(←いったいこれは何なのだ。他と完全に浮いてしまっているが。)

2、余が処世主義（渋沢栄一）、3、義務教育年限延長と其の改造、4、精神生活の根底…9、園芸趣味と其の普及、10、民心の作興思想の善導」。

内題：＜要領を得た＞＜模範＞式辞弔詞と其の挨拶／文学士・橋場秋梧編」、尾題：＜模範＞式辞弔詞と其の挨拶終」。352頁。上部に指標とノンブル。

刊記：昭和10年2月15日印刷、昭和10年2月20日発行、昭和10年10月5日再版、昭和13年3月10日3版／＜要領を得た＞＜模範＞式辞弔詞と其の挨拶、定価60銭 送料8銭、不許複製／編輯者 雄辯學會、発行者 東京市浅草区浅草橋1ノ5ノ10・宮本九朗、印刷者 東京市神田区猿楽町2ノ8ノ1・堀部季男／発行所 東京市浅草区浅草橋1ノ5ノ10・宮本書房」。

63) B ＜要領を得た＞＜模範＞式辞弔詞と其の挨拶 戦時下の式辞と弔詞増補（外）

三六判 1冊]

カバ：白地に緑でAと同じ模様、黒で書名等。「＜要領を得た＞＜模範＞式辞弔詞と其の挨拶 戦時下の式辞と弔詞増補」／雄辯学会編。背も同文だが、副題「戦時下の式辞と弔詞増補」のみ緑色で印刷。扉：赤茶色刷り。題名等カバに同じ。序：無し。

目次①：増補＜戦時下の＞式辞と弔詞」。出征兵士送別会別辞～戦捷部隊長への感謝状（30）

＊この部分24頁が増補分。

目次②：演壇上の注意と聴衆の感化、音声の注意、姿勢の注意、言語の注意、立論の順序、会場の形式、式辞祝文の朗読に就いて、

祝辞文例：1、教育勅語下賜記念会、2、忘年会の乾盃、3、年頭所懐～138、山林保護会の式辞、139、同答辞、140、郵便局開設の式辞。

弔慰祭文文例：弔祭口演の心得 141、名望家に対する弔詞、142、友人に対する弔詞～149、友人の戦死を弔する文、150、贈位祭典文」。

内題：＜要領を得た＞＜模範＞式辞弔詞と其の挨拶」。288頁＋奥。

刊記：昭和10年2月15日印刷、昭和10年2月20日発行、昭和10年10月5日再版、昭和14年7月10日五版」、以下Aに同じ。

63) C 六版

三六判 カバ 1冊

カバ：Bと同じく青緑色の模様黒字で書名等。「＜要領を得た＞＜模範＞式辞弔詞と其の挨拶 戦時下の式辞と弔詞(ママ)増補」／雄辯学会編。(背の副題：戦時下の…のみ緑字)。

扉：赤茶色刷り。副題の「訶」が「詞」と正しくなっているほかはAと同じ。序：編者識」。

目次①：Aに同じく24頁戦捷部隊長への感謝状マデ。目次②：140、郵便局開設の式辞まではAと同じ。以下、「弔慰祭文文例」、「弔祭口演の心得として」が続き141、名望家に対する弔詞、142、友人に対する弔詞、143、戦死者に対する弔詞～174、和氣清麿を弔ふの文、175、西郷隆盛を祭る文、

176、海軍戦死者の母を慰むる文」が加わる。目次終」。

内題：①＜要領を得た＞増補＜戦時下の＞式辞と弔詞」。②＜要領を得た＞＜模範＞式辞弔詞と其の挨拶／雄辯学会編」。尾題：＜要領を得た＞＜模範＞式辞弔詞と其の挨拶終」。 332頁＋奥。

刊記：昭和10年2月15日印刷、昭和10年2月20日発行、昭和10年10月5日再版、昭和13年3月10日3版、昭和13年11月20日4版、昭和14年7月5日5版、昭和16年2月25日6版／不許複製／＜要領を得た＞＜模範＞式辞弔詞と其の挨拶 停定価80銭＜送料8銭＞／編輯者 雄辯學會」、以下Aに同じ。奥付ウラに「＜新編＞軍歌集」、「＜要領を得た＞＜模範＞軍人手紙の作り方と書き方」の広告アリ。

64) 兵隊の手紙文＜戦地から故郷から＞

文庫判 1冊。表紙：灰色に題名等青刷り。「帝國通信協會編／兵隊の手紙文＜戦地から故郷から／附支那語早わかり」。扉：赤字で表紙と同文辞。

兵隊の手紙文／目次」：手紙の書き方、文例（入営に際して、入営祝の答礼、営内生活を知らず、年賀状の書き方、祝賀文、四季の見舞文、弔慰及び哀悼文、出征営内の報知文）、入営除隊の挨拶（入営の挨拶、満期除隊の挨拶、帰郷後の挨拶、出征凱旋の挨拶、陣中だより」。

附録：支那語早分り 発音の仕方、会話の要点、短(ママ)語会話集：単語と会話：1数及度量衡、2：日常の挨拶、3、訪問の言葉、4、天候、15（ママ）乗船、16、道案内、32(ママ)、軍事語（単語、会話）。

*軍事語は、単語：陸軍、海軍、参謀本部～探海灯、洲、拘獲、会話：日本和中國打仗了～我們的營規沒免票的人不準出入」。附：商用数字、数字の正字、時刻（日）、月に関する語（年）、週に関する語、國名、省名、地名。

内題：兵隊の手紙文」。 225頁＋奥（145頁まで本文、146頁から支那語早分り）。

刊記：昭和14年2月20日印刷、昭和14年2月25日発行、不許複製／兵隊の手紙文、定価金40銭、送料金10銭／編者 帝國通信協會、発行者 東京市下谷区御徒町3ノ82・鈴木吉平、印刷者 東京市神田区西神田1ノ9・平賀清之

助／發賣所 大阪市浪速区元町2ノ106・榎本書店、東京市下谷区御徒町3ノ82・泰光堂書店」。

65) A 聖戦下の式辞と挨拶集<附一般選挙演説> (外)

三六判 1冊

カバ 朱、黄、黒で、西洋の城塞の上に翻る日章旗、題名、機影等。＜國民の進むべき道＞／青年雄辯奨励會編／聖戦下の式辞と挨拶集／＜附・一般選挙演説＞／＜東京大阪＞文英堂發行」。

後ろ表紙は日本軍機の機影と¥75の定価表示。背は黄色で書名と濃紺で副題「附一般選挙演説」。表紙：香色ひび割れ模様地紙に濃紺で印字。「青年雄辯奨励會編／聖戦下の式辞と挨拶集<附一般演説挨拶>／文英堂發行」。後ろ表紙は英字入り社章と60銭の定価、背は書名と編者名。扉：朱刷り。表紙と同じ編者名、書名、發行元。

はじめに「國民の進むべき道（内閣告諭）（内閣総理大臣・近衛文麿）11頁アリ。

聖戦下の式辞と挨拶・目次：國民の進むべき道、時局に處する國民の覚悟、出征将兵歡送激励（聖戦下の人営兵を送る辞、非常時下入営兵の答辞…銃後國民として出征者に献ぐ（女性の例）、歡送をうけて答辞）、陣中将士へ感謝と慰問、白衣勇士歡迎と慰問、従軍並に慰問使等の歡送、戦没将士弔辞と挨拶、戦捷祝賀、凱旋将士歡迎、一般慶祝、送別表忠建碑、追悼弔詞、選挙演説挨拶」。

内題：聖戦下の式辞と挨拶」。274頁+奥。刊記：昭和14年7月5日印刷、昭和14年7月10日發行、昭和15年2月5日再版發行、昭和15年6月20日七版發行、定価75銭／聖戦下式辞挨拶集、印紙／著作者 青年雄辯奨励會代表者・久保直之、發行者 大阪市西区靱下通2丁目32番地・益井俊二、印刷者 大阪市南区順慶町1丁目37番地・大谷末吉／發行所 東京市神田区須田町1丁目6番地、大阪市西区靱下通2丁目32番地・文英堂」。ウ以下に、久保直之著＜すぐ間に合ふ＞標準書翰文、聖戦慰問奨励會編・慰問文の書き方」、＜昭和＞日用いろは辞典」の広告アリ。

65) B カバ欠 1冊。副題：一般演説挨拶」。刊記：昭和14年7月5日印刷、昭和14年7月10日発行、昭和15年2月5日再版発行、昭和15年6月20日七版発行、昭和16年2月20日九版発行、定価75銭、著作権所有・聖戦下式辞挨拶集」、以下Aに同じ。

66) <出征兵士に送る><男女>慰問手紙文集

B7判 小本1冊

表紙：白地に「<出征兵士に送る><男女>慰問手紙文集」、東京＝積文堂發(ママ)」。背：男女慰問手紙文集 東京 積文堂發行」。扉：<出征兵士に送る>慰問手紙文」。

<出征軍人に送る>慰問手紙文目次」：1、出征将兵激励歓送の手紙、2、出征将士に送る慰問状、3、傷病将士に送る慰問状、4、戦勝を祝賀する手紙、5、凱旋歓迎の手紙、6、戦歿勇士を弔ふ手紙」。63頁＋奥。

内題：<出征軍人に送る>慰問手紙文」。

刊記：昭和16年1月20日印刷、昭和16年1月25日発行／定価60銭／不許複製／編纂者 積文堂編輯部、発行人 東京市中野区小瀧町49・市川靖巳、印刷人印刷所 東京市四谷区本村町4番地・鈴木芳太郎、発行所 東京市中野区小瀧町49、積文堂書店」。

67) <陸海>軍人はがき用文

B6判 1冊。

表紙：色刷り、旭日旗、小銃、錨等の図。題名等は濃紺色印刷。「武島敏雄著／<陸海>軍人はがき用文／矢島誠進堂發兌」。

宣戦詔勅 明治37年2月10日 御名御璽」。勅諭 明治15年1月4日 御名」。

*終末近い12頁8行目に「しやて」トアルハ「してや」の誤植。讀法」。

目次：<陸海>軍人はがき用文目次」、勅諭、讀法」、新年の賀状、同一例、同一例、同返書、寒中見舞の状～入営前在営の友人に依頼す、紹介を頼む、刀剣の鑑定を頼む、病氣見舞を謝す、軍服の直し方を頼む」。

上欄目次」：條約國名、師団、旅団連隊所在地、海軍区～三体いろは、英字

三体～運算九々（加減乗除）、名頭盡（いろは別）、姓氏盡（いろは別）、日用文字集（いろは別）：委託・たのむ、優渥・かくべつにあつし、優勝・すぐれたるがかつ、優劣・まさりおとり、幽囚・とらはれ～樞要・かんじん、推測・おしはかる、出師・いくさをだす、炊事・にたき、吹奏・ふきかなでる」。ハガキ宛先・用文末の見本図」。

内題：＜陸海＞軍人はがき用文／誠進堂編纂」、尾題：＜陸海＞軍人はがき用文（終）」。＊上段は活版、下段は鉛版。193頁。

刊記：明治37年10月25日第10版印刷、明治37年11月1日第10版発行／＜陸海＞軍人はがき用文」／不許複製／著者 武島敏雄、発行者 大阪市南区鹽町4丁目211番邸・矢島嘉平次、印刷者 大阪市南区鹽町4丁目151番邸・砺波伊三郎／発行元 大阪市南区心齋橋通り鹽町北へ入・矢島誠進堂書店」。

＊初版年次は記載なく不明。

68) ＜戦時＞送迎祝文演説教範 第二版

三五判 1冊

白表紙に赤・黒の飾り枠、黒題字ほか。上枠外に「＜第二版＞」、下に「＜戦時＞送迎祝文演説教範／正二位海軍中將 榎本武揚閣下題字、正三位東京府知事 千家尊福閣下題歌、重齋 大畑裕先生著／不許複製／東京書肆 求光閣発行」。背は書名+全と東京求光閣発行」。

見返し：群青色。題字、題歌に次ぎ演説文を読む色刷りの折込み口絵アリ。次いで「＜刻下最大高評＞廣告 海軍少将肝付兼行閣下題詠、法学博士田口卯吉先生題字、大畑裕先生著＜戦時＞吊祭慰問文教範」、＜不日発刊・刻下大必要＞として「大畑裕先生著「＜戦時＞續吊祭慰問文教範」の内容案内付き予告がある。

目次：祝文の定義、賀表の定義、祝辞朗読者の式場へ出る心得…出征兵士を送る祝辞…賀表」。＊目次61頁に「廣瀬中佐を吊ふ文」とあれど、現物無く「暑中の慰問状」が入る。＊各例の後に多くの場合「類語」「類語活法」を付す。

内題：＜戦勝＞送迎祝文演説教範／著者 大畑裕」。

上欄：本書の熟語、膽力の養成、本書の熟語（其二）、文を作る法、尚武の珍談（＊本文：尚武の快談）、吊祭文類語の部…漸、寝、稍、較の字解（本文：寝、漸、徐、稍、較、差の解釈）…いろは熟語（威烈・ハゲシキイカウ、偉勲・スグレシテガラ〜良将・ヨキタイシヤウ、瀏覧・ゴランオミナサル）、ナポレオンの初時、陳(ママ、本文は陣)中の気ばらし、旅順降伏と外国武官、いろは熟語（其二、るの部：壘壁・トリデ、累世・ダイダイ〜すの部：…水師・フナイクサ、推及・オシオヨホス）。新戦場」。

4＋口絵＋330頁＋奥＋（広告）8頁。

刊記：明治38年4月1日印刷、明治38年4月5日発行、明治38年5月1日二版／定価金30銭／不許複製／送迎祝文演説教範／著者 大畑裕、発行者 東京市京橋区本材木町3丁目20番地・服部喜太郎、印刷者 東京市神田区表神保町10番地・大島寛治／発行所 東京市京橋区本材木町3丁目20番地・図書出版卸商 求光閣書店」。

広告：鶯溪散史著「＜作文資料＞美文断錦」等34点＋求光閣発行書目録定価表（橙色紙）「南菫 岩井正次郎先生著「＜海陸軍人＞送迎演説模範附祝辞 弔祭文例」、大畑裕・「＜軍人＞青年討論演説五千題」等16点。

69) ＜戦時＞弔祭慰問文教範 第四版

判型、表紙、68と同様式。「海軍少将 肝付兼行君題歌、法学博士 田口卯吉君題字、重齋 大畑 裕著」／不許複製、（第四版）／＜戦時＞弔祭慰問文教範／東京書肆 求光閣発行」。

見返し：深緋色。題字、題歌。折込み色刷り口絵1葉（弔祭式様子）アリ。
＜戦時＞弔祭慰問文教範／目次：弔祭文の讀法、死者に対する讀経〜碑文の定義、碑陰の文の定義、墓誌銘の定義 ◎祭文の部：沙河会戦の戦死者を祭る文〜広瀬中佐を祭る文〜征清戦死軍人を祭る文、◎慰問文の部：旅順海戦の慰問文〜同（雪中の慰問文）其四、◎吊詞の部：常陸丸殉難者の吊詞〜亡母の霊に告る文、◎招魂祭の部：招魂祭の祭文〜三十四聯隊長關谷大佐を吊ふ文、◎平時祭文の部：中村敬字先生を祭る文〜大畑藤太郎を祭る文」、目次終」。

内題：＜戦時＞弔祭慰問文教範／著者 大畑裕」。尾題：＜戦時＞弔祭慰問文教範終」。

多くの文の末に「類語活法」または「本書熟語」アリ。また、各部の区切りにイラストあり。

324頁＋奥＋（広告）7頁。

刊記：明治37年12月13日印刷、明治37年12月17日発行、明治38年2月15日四版／定価金30銭／不許複製／著者 大畑裕、発行者 東京市京橋区本材木町3丁目20番地・服部喜太郎、印刷者 東京市神田区神保町10番地・今成温平／発行所 東京市京橋区本材木町3丁目20番地・図書出版卸商 求光閣書店」。

広告：「日本勤王史傳」～「＜類題＞発句壹万集」26点、求光閣発行書目録定価表として16点。中に「重齋大畑裕先生著＜戦時＞送迎祝文演説教範 近刊 定価金30銭、郵税金6銭」アリ。

70) ＜戦時＞續弔祭慰問文教範

判型、表紙：68と同様式。「大学講師 日下寛先生題字、海軍少将 肝付兼行閣下題歌、重齋 大畑裕先生著／不許複製／＜戦時＞續弔祭慰問文教範／東京書肆 求光閣発行」。

題字：明治乙巳（38年）孟夏 白水寛書」、題歌：戦時弔祭慰問文教範に題す もみち葉のいろより赤き民草のこゝろそくにの光りなりける 兼行」。見返し：緑。

目次：○吊詞の部 ◎奉天戦死者への吊詞～戦死馬への吊詞（25）、○祝賀の部 ◎感謝状～祝捷会の祝辞（4）、○慰問状の部 ◎奉天占領の慰問状～花時の慰問状（43）、○祭文の部 ◎法庫文戦死者への祭文～二百三高地戦死者への祭文（12）、○普通の吊祭文の部 ◎白石先生を祭る文～同（古戦場を吊ふ文）國文（12）、○墓碑文の部 ◎高間壮士の碑～南海忠烈の碑銘（12）」、目次終」

内題：＜戦時＞續弔祭慰問文教範／著者 大畑裕」。上部に「續弔祭慰問文教範」の指標。

各文末に類語または字解、熟語を附す。各章末にイラストあり。「花時の慰問状」は型通りの看護婦だが、墓碑文の前のそれは滑稽かつ残虐な構図。不愉快極まる。

242頁＋広告7＋求光閣発行書目録定価表3（橙色紙）頁。

*242頁末に「附記」として「是より以前の事を知らんと欲せば、即ち第一巻の「吊祭慰文教範」を覧らるべし」として前著の案内広告文あり。また、奥ウに「刻下最大高評」として詳しい内容案内付き広告アリ。橙色頁定価表広告は前著と全く同じ。

刊記：明治38年6月1日印刷、明治38年6月4日発行／定価金25銭／不許複製／著者大畑裕、発行者 東京市京橋区本材木町3丁目20番地・服部喜太郎、印刷者 東京市神田区南乗物町15番地・龍雲堂 大場サダ／発行所 東京市京橋区本材木町3丁目20番地・図書出版卸商 求光閣書店」。

71) <戦時送迎>祝祭慰問文範 第2版

三五判 1冊

表紙：黒と赤で飾り枠、印字。尚武研究会編纂 第二版／<戦時送迎>祝祭慰問文範／東京・文陽堂発行」。薄緑遊び紙1葉。序：明治38年七夕、孤灯の下に、小林紫軒識」。

目次 第壹編：祝賀文 第壹章・賀表、2章・祝賀文、第貳編 送迎、第三編 慰問、四編 表彰、五編 弔祭、六編 雑種、七編 勅語」、目次畢」。

内題：<戦時送迎>祝祭慰問文範／尚武研究会編纂」、尾題：<戦時送迎>祝祭慰問文範畢」。上欄に指標アリ。328頁＋奥＋広告。

刊記：明治38年7月13日印刷、明治38年7月18日発行、明治38年10月21日再版印刷発行／不許複製／祝祭慰問文範／発行者 東京市神田区美土代町3丁目壺番地・富田熊次、印刷者 東京市神田区錦町3丁目25番地・熊田宜遜、印刷所 東京市神田区錦町3丁目25番地・熊田活版所／発行所 東京市神田区美土代町3丁目1番地・文陽堂書店」。

次丁から30頁に亘り富田文陽堂発行書目あり、本書を含む64点の内容案内付き広告を載せる。また後ろ表紙にも<作文良材>美文精選等2点を挙げる。

72) 慰問の手紙文

B6判1冊

表紙：紺で匡郭と書名等。「陸軍少佐三木軍司殿推薦、聖戦慰問奨励會編／慰問の手紙文／附・戦地の便りと家族の手紙、出征歓送の挨拶」。背は書名と附録題。

扉：紺字、表記は表紙と同じ。推薦の辭：昭和16年如月 陸軍少佐三木軍司識す」。

序：著者しるす」

目次：慰問の手紙文／目次：出征・(解説)、出征を報ずく本人よりの報知>、息子の出征<父より親類へ>、夫の出征を知らずく妻より実家へ>…父よりの礼状<祝はれし人々一般へ>、弟よりの御礼<兄送らざりし叔母へ>」、陣中への手紙・(解説)、勇士の父より<慈父よりの慰問>、故郷の母より<軍國の母として>…村会の代表者より<素晴らしい御手柄(ママ)を>、青年団の代表者より<偉大なる青年の範>」、一般慰問文・(解説)、春の慰問袋に添へて<戦場の草原にて>…戦場の兵隊さん<3年生の慰問文>」、陣中通信・(解説) 陣中の弟より兄へ<奮戦のたより>、黒髪へ添へて<勇士の妹より>…駐屯地より水害見舞<曠野青草の岡>、奮戦の余暇知人へ<敵兵を二人斬つた>」、白衣の勇士慰問・(解説)、自身の戦傷通知<奮戦便りと共に>…婦人団体へ対する御礼状<武運拙なく>、一般の人への御礼の手紙<白衣の戦士より>」、戦死弔慰・(解説)、戦死の通知<その家族より>…遺族への一般弔慰の手紙<遺族へのお悔み>、弔辞をうけた御礼の手紙<一般遺族の御礼>」、凱旋・(解説)、凱旋の通知<友人より一般向き>…友の凱旋を祝ふ<武勲をたゝふ>」、奮戦勇士と家族の手紙 戦闘通信：爆撃の便り<尾崎才治三等航空兵曹>…部下の妹の死を弔ふ<柏松二郎隊長>」、銃後の金字塔：愛児を励ます<後藤こぎぬ手記>…健気な激励<町口はる手記>」、輝く手記：衛生隊の美談<佐々木部隊長手記>…夫の海軍葬に臨みて<菊田治子手記>」、出征勇士歓送激励の文：皇國の使命達成を期せよ<帝國在郷軍人会の祝辞>…数々激励のお言葉を賜り<家族近親者の挨拶>」。目次終。187頁+奥。柱に指標とノンブル。

刊記：昭和16年3月27日印刷、昭和16年4月1日発行、昭和16年8月20日再版
発行／著作権所有／定価金50銭／編輯者 久保直之、発行者 大阪市西区靱
下通2丁目32番地・益井淳次、印刷者 大阪市西区南堀江通5丁目・文英堂
印刷部／発売所 大阪市浪速区元町2丁目67・祐文堂。

73) <時局下の>式辞挨拶演説文範

B6判 箱入り1冊

箱：薄緑の模様、「加藤咄堂監修、研文学寮編／<時局下の>式辞挨拶演説
文範／式辞挨拶の要領◎時局に處する大精神。出征歓送。入営送別。慰問感
謝。戦捷祝賀。凱旋歓迎。除隊歓迎。戦死弔祭。記念 招魂。一般慶祝。披
露。懇親。歓迎。送別。弔祭。電文。」と内容を表示。

ウラに¥1.00」

表紙：薄緑と茶で模様。加藤咄堂監修。研文学寮編／<時局下の>式辞挨拶
演説文範」。下方に帯のようにして「内容／式辞挨拶の要領、時局に處する
大精神、時局下の式辞挨拶：／出征歓送～記念招魂、一般の式辞挨拶：慶祝
披露、歓迎送別、懇親弔祭、慶弔電報／心得おくべき事ども」と内容を示
す。箱・表紙とも背に監修者、編者名と題名がある。

扉：赤刷り、監修者、編者名と題名。

序に代へて」、昭和戊寅（13年）7月聖戦第2年記念の日、研文学寮編集部」。

目次：式辞挨拶の要領、時局に處する大精神、時局下の式辞挨拶（中扉）

1) 出征歓送 作例・範例（扉：時局下の式辞挨拶 出征・入営・慰問・祝
捷・凱旋・除隊・弔祭・其他）：応召出征者歓送の辞（朗読）作例1～同（渡
満兵士送別会席上）謝辞、参考類句。2) 入営送別：某君の入営を送るの辞
～入営送別会に於ける入営者の挨拶、参考類句。3) 慰問・感謝：戦線将士
への慰問状～同（戦線より交友へ）其の2、参考類句。4) 戦捷祝賀：戦捷
祝賀会祝辞（朗読）～南京陥落賀表、参考類句。5) 凱旋歓迎：凱旋将校歡
迎会の式辞～凱旋歓迎会謝辞、参考類句。6) 除隊歓迎：除隊歓迎の辞（朗
読）～除隊帰村に際しての挨拶、参考類句。7) 戦死弔祭：戦死陸軍将校追
悼の辞～日支事変戦死者大追悼会疏文、参考類句。8) 記念・招魂：陸海軍

戦捷記念会の式辞～戦死病没者招魂祭祭詞、参考類句。 計148例。一般の式辞挨拶（中扉）。

慶祝＜祝祭。壽賀。快癒。卒業。開創。記念。＞：天長節奉祝会式辞～出版記念会に招かれて。2）披露＜結婚。開店（業）。襲名。引退。＞：結婚披露宴に於ける媒酌人の挨拶～某氏の引退披露会に於て。3）歓迎＜新任。入社。帰客。来朝。＞：新任小学校長歓迎会の挨拶～同上（伊太利親善使節歓迎晩餐会挨拶）。4）送別＜転任。退職。外遊。発展。＞：同僚の栄転を送る～雄辯研究会の集ひに於て。5）弔祭＜葬送。告別。追悼。慰霊。＞：町（村）長を弔ふ辞～恩師の一周忌に。合計77例。

便利な慶弔電報。心得おくべき事ども（雑談も講演の一部分～神官から受ける玉串の作法）。

＊作例と著名人の実例を多く掲載する。内題無し。柱に指標。尾題：本文了」。421頁＋奥。

刊記：昭和13年7月15日印刷、昭和13年7月18日発行／▲式辞挨拶演説文範
▼定価金壹円／編者 研文学寮、発行者 東京市日本橋区本町4丁目2番地・磯部辰次郎、印刷者 東京市神田区神保町3丁目23番地・塚田十五郎、印刷所 東京市神田区神保町3丁目23番地・塚田印刷所／発行所 東京市日本橋区本町4丁目2番地・龍文舎」。ウラに木村小舟編・「＜支那事变＞盡忠報國感激美談」、「＜支那事变＞忠勇報國美談」の広告アリ。

74) <現代>祝賀弔祭演説辭典

三六判 1冊。黒クロス装、右横書で「<現代>祝賀弔祭演説辭典」。背も書名のみだが「辭典」。吾亦紅色で梓・印字。「<現代>祝賀弔祭演説辭典／國際雄辯會編大洋社版」。

＊巻頭にいきなり「出征兵士を送る（一、二）、同答辭（一、二）がある。はしがき 編者識」。

…本書はアイウエオの五十音別にして、各成語の後にはそれぞれ作例を掲げ…

祝賀弔祭演説辭典目次：演説を上手にするには、アの部：愛國婦人會支部発

會及總會式辭、同會員の答辭～レの部：聯合教育會開會式祝辭」。目次終」。内題：＜現代＞祝賀弔祭演說辭典」。尾題：＜現代＞祝賀弔祭演說辭典終」。刊記：昭和12年10月5日印刷納本、昭和12年10月10日發行、昭和10(ママ)年11月10日再版、昭和13年1月5日3版、昭和13年4月25日4版／現代祝賀弔祭演說辭典、定価1円50銭／不許複製／編者 國際雄辯會、發行者 東京市神田区神保町1ノ30・大谷徳之助、印刷者 東京市神田区猿樂町2ノ13・岩見雄司／發行所 東京市神田区神保町1ノ30・大洋社」。504頁＋奥。

75) 祝賀弔祭文・演說・挨拶

B6判 1冊

カバ：色刷り。シルクハット・燕尾服、壇上で演說する男性の後ろ姿。国旗・旭日旗・壇上机に生花。

表紙：紺クロス装。ライオンの金紋章。背：祝賀弔祭文演說挨拶 大日本雄辯會編」。

扉：濃紺字。大日本雄辯會編／祝賀、弔祭文、演說、挨拶／大文館發行」。

序：犬養内閣成るの日 著者識」。

祝賀弔祭文・演說・挨拶／目次」、＜新築・落成＞、＜竣工・開通＞、＜学校新築開校式＞、＜卒業式＞、＜発会・創立＞、＜開会＞、＜歓迎＞、＜新任者歓迎＞、＜賀表・奉祝・祝賀＞、＜還暦・結婚＞「還暦祝賀会の謝辞：福沢諭吉」アリ、＜祝宴＞、＜転任者送別＞、＜披露＞、＜慰労＞、＜推薦＞、＜就任・辞任＞、＜雑＞、＜展览会・博覧会＞、＜共進会＞、＜品評会＞、＜運動・競技＞、＜弔辞＞、＜殉難・殉職追悼＞、＜除幕・建碑・表彰＞、＜模範大演說＞、祝賀弔祭文・演說・挨拶目次畢」。

内題：祝賀弔祭文・演說・挨拶／大日本雄辯協會編」。(柱に内容指標アリ)。

尾題：祝賀弔祭文・演說・挨拶終」。

刊記：昭和7年2月10日印刷、昭和7年2月15日發行／定価金壹円貳拾銭／不許複製／祝賀弔祭文・演說・挨拶／編者 大日本雄辯協會、發行者 大阪市西区薩摩堀東之町15番地・前田千代藏、印刷者 大阪市西区阿波座中通2丁目4番地・井下精一郎、印刷所 大阪市西区阿波座中通2丁目4番地・井下

書籍印刷所／発行所 大阪市西区薩摩堀東之町15番地・大文館書店」。474頁＋奥。

76) <出征兵士に送る>慰問手紙文

B6判 カバ 色刷り：銃を肩に手紙を読む兵士と郷里の家の図。「<出征兵士に送る>慰問手紙文」。背：書名と「附式辭・演説・挨拶」。¥.50」。

表紙：灰青色、紺色印刷字。「元文社編集部編／<出征兵士に送る>慰問手紙文／附 出征兵士歓送迎の式辭挨拶」。扉も同文。自序：漢口陥落を前にして 著者識」。

出征兵士に送る慰問手紙文／目次」。団体の慰問文、肉親の慰問文、知己・朋友の慰問文、一般の慰問文、銃後の赤誠」。目次終」。

内題：出征兵士に送る慰問手紙文／団体、戦捷の感謝…戦死者の遺族への弔慰文。

*「陣中の友へ」：〇〇君、死んで呉れ、死んでも靖国神社に祀られ、護国の神と仰がれる君だ。…〇〇君、男と生れて、戦場で死ぬ程名誉な事はないのだ。僕は決して、生きて帰れとは云はない」云々の文章はひどいものであるが、煽るようなこの調子のものは、この時期のこの手の書冊にしばしば目にするところである。如何に世の中がおかしくなっているかが分る。尾題無し。柱に115頁まで書名アリ。193頁＋奥。

刊記：昭和13年10月10日印刷、昭和13年10月15日発行／出征兵士に送る慰問手紙文奥附、定価金50銭、送料9銭／不許複製／編者 元文社編集部編、発行者 大阪市西区島津町5番地・田中貫行、印刷者 大阪市浪速区西圓手町1032・岩岡忠一」／発行所 大阪市西区島津町5番地・元文社」。

77) <戦時下に於る>式辭挨拶手紙模範集 雄辯新年特大號附録

B6判 表紙：茶と水色で模様。題名等。背には副題無し。

昭和13年12月5日印刷納本 昭和14年1月1日発行 雄辯第30巻第1號附録（裏表紙にも同表記）。送料6銭。

裏表紙上下に書名およびMade in Nippon(Japan)の英語表記アリ。「萬歳々々躍

進日本の三菱鉛筆、國産の王者」の飛行機・富士山のイラスト入り広告アリ。
扉：〈戦時下に於る〉式辞挨拶手紙模範集、雄辯新年特大號附録」。

序 昭和14年春 雄辯編輯局同人」。

目次：式辞挨拶篇 ○〈出征入営〉歓送の辞並答辞、○慰問及見舞の挨拶、
○戦死者追悼の式辞挨拶、○戦時下の式辞挨拶いろいろ：…漢口陥落祝賀記念式に於て・大日本雄辯会講談社 須田忠良（昭和13年10月28日 大日本雄辯会講談社屋上に於て）

手紙電文篇 ○慰問の手紙いろいろ、○見舞の手紙いろいろ、哀悼の手紙いろいろ、○帰還兵及びその家族へ、○戦場より銃後へ、○電文篇

*頭書に「出征兵士歓送にはこの心得・加藤咄堂、式辞挨拶の心得、銅像記念碑除幕式の式辞心得、忠魂碑除幕式の辞類句、慰問文についての諸注意、手紙の書式心得、悔み状の心得九ヶ條、手紙用語の心得、発信受信の方法いろいろ等アリ。

刊記：昭和13年12月5日印刷納本、昭和14年1月1日発行、雄辯新年特大號（第30巻第1號）附録、送料 {本誌・第3種 3錢5厘、附録・第4種 6錢、同送の場合・小包 14錢、外国送料・48錢} / 不許複製／編輯兼發行人 宮下丑太郎、印刷人 日永悌三、印刷所 東京市麴町区有楽町1ノ13報知ビルディング・〈株式会社〉有恒社／發行所 大日本雄辯会講談社」。定価（本誌と共に）1圓」。

前見返しにらちうむラップ、後ろ見返しに（どもりが短日に完全に治る学校）〈財団法人〉楽石社の広告、巻末に実用式辞挨拶演説集、雄辯法講話、雄辯読本、〈交渉応対〉座談術、〈模範的式辞挨拶〉五分間演説集、〈式辞挨拶〉十分間演説集、美談逸話集の7点の内容案内付き広告アリ。320頁。

78) 〈出征兵士に送る〉慰問手紙の書方

B6判 1冊

カバー：色刷りで書名と兜を被った嬉しそうな兵士の顔と桜の花びら付き封筒・便箋。

表紙：薄水色地に紺字で書名等。「元文社編集部編／〈出征兵士に送る〉慰

問手紙の書方 附戦傷勇士に送る慰問文の作り方／元文社刊。背にも書名と副題。

扉：版元名を除き表紙と同じ。

目次：＜出征兵士に送る＞慰問手紙の書方／目次」 慰問文の作り方、戦地への慰問文：早く平和の日を（お兄様へ）、傷病兵への慰問文、遺家族への慰問文」、目次（終）」。

内題：＜出征兵士に送る＞慰問手紙の書方」。尾題無し。柱に「慰問文の作り方」の指標アリ。

刊記：昭和14年12月15日印刷、昭和14年12月20日発行／＜出征兵士に送る＞慰問手紙の書方、定価金40銭、送料9銭／不許複製／編者 元文社編集部、発行者 大阪市西区島津町5番地・田中貫行、印刷者 大阪市浪速区西園手町1032・岩岡忠一／発行所 大阪市西区島津町5番地・元文社」。

79) ＜これ文は知らねばならぬ＞慰問文の書方

小B6（新四六）判、濃紺クロス装1冊（カバ欠）

扉：文学士 木田重三郎著／＜これ文は知らねばならぬ＞慰問文の書方／東京・大同出版社」。序の言葉 編者識」。

目次：＜銃後より出征兵士へ＞慰問文の書方 目次」、第1編 慰問文の書き方：1、銃後を守る我等の義務、2、立派な慰問文を書くには、軍事郵便に就いての心得、第2編 戦地への慰問文（フリカナ・ゐもんぶくろ＜ママ＞） 1、戦場の愛児に・大統領リンカーンより、2、団体からの慰問文、3、肉親からの慰問文、4、知己、朋友からの慰問文、5、一般の慰問文：お馬に御馳走あげて下さい（小学生）、軍用犬は強いですか（小学生）、日清戦争に参加したものより（一老人）等アリ。第3編 負傷兵（章題・傷病兵）への慰問状：1、名誉の戦傷者への慰問文、2、不幸にして病床に臥す将兵諸氏への見舞ひ文、第4編 遺家族への慰問文：1、出征遺家族への慰問文、2、戦死者遺家族への慰問文、第5編 銃後の赤誠、第6編 入営、在営者への慰問激励文：1、入営を祝す手紙、2、在営兵士への手紙」。

内題：＜銃後より出征兵士へ＞慰問文の書方 附・入営在営者への慰問激励

文」。尾題無し。

頁上部に指標アリ。226頁＋奥。

刊記：昭和15年12月15日印刷、昭和15年12月20日発行／＜銃後より出征兵士へ＞慰問文の書方 附入営在営者への慰問激励文／不許複製／定価金壱円／
著作者 木田重三郎、発行者 東京市小石川区大塚町33・櫻井均、印刷人
東京市麴町区飯田町1ノ5・須藤西壽／発行所 東京市小石川区大塚町33・
大同出版社」。

奥ウから9頁に亘り大同出版社の「これだけは知らねばならぬ」シリーズ：
詩吟と剣舞、挨拶と演説の秘訣、囲碁定石、将棋定跡、慰問手紙の書き方、
出征兵士挨拶の仕方、かくし芸全書、手紙上達の秘訣、座談の秘訣9点の、
書影・内容付広告あり。「慰問手紙の書き方」では「祖國の空遠く荒野に戦
ふ勇士に、熱誠溢るゝ感激の慰問文を送るのは、聖戦下に於ける銃後の尊く
美しい義務なのだ!!」と煽っている。

80) ＜出征兵士に贈る＞赤誠の慰問文 附歓送迎の式辞挨拶

B6判 1冊

表紙：薄灰色地に濃紺印字。「帝國通信協會編／＜出征兵士に贈る＞赤誠の
慰問文―陣中便り―／附歓送迎の式辞挨拶」。

見返し・扉：薄黄緑色、濃紺印字。「＜出征兵士に贈る＞赤誠の慰問文、
＜附歓送迎の式辞挨拶／帝國通信協會編」。

目次：＜出征兵士に贈る＞赤誠の慰問文／目次」。親戚・家族の慰問文、親
友・知己の慰問文、團體の慰問文、一般（慰問袋等）の慰問文、出征を祝ふ
激励の手紙、陣中から勇士の手紙、白衣勇士の慰問文、戦死弔慰問の手紙、
銃後感激の手紙：息子の戦死を願ふ（この手紙は河田特務兵の父河田清松氏
がその所属の竹内部隊長に宛てたる赤誠あふるゝ手紙の抜萃）との注アリ。
また、部隊長にあてた赤誠の文として（この手紙は壮烈なる戦死を遂げた小
池由男伍長の妻小池くら子さんが、佐々木五三部隊長のもとへ問合せた手紙
です。同部隊長はこの手紙と入れちがつて、事細かに書き送りましたがその
時の手記を参考に左に掲げます）との注記アリ。

出征将兵歓送迎の挨拶、凱旋を祝ふ挨拶、書翰文の作りかた」。目次（終）」。
＜ペン習字＞慰問文乃書き方（戦線の我子へ～白衣の友に送る）」。

内題：＜出征兵士に贈る＞赤誠の慰問文／附歓送迎の式辞挨拶」。書翰文の
作り方」。尾題：書翰文の作り方」。369頁＋奥。241頁以下は「書翰文の作り
方」、用語等。

刊記：昭和14年6月20日印刷、昭和14年6月25日発行／不許複製／女子の慰
問文、定価金80銭、送料金10銭／編者 帝國通信協会、発行者 大阪市南区
順慶町1ノ45・三島源次郎、印刷者 大阪市浪速区桜川1丁目・今西市次／
発売所 東京市浅草区壽町1ノ1・東江堂書店」。奥付には書名「女子の慰問
文」とある。また、

＊230頁：凱旋兵に対する団体代表挨拶 研文学寮編時局下の式辞挨拶演説
文範より抜萃。＊232頁：凱旋兵に対する祝辞 元文社編出征兵士に送る慰
問手紙文より抜萃。＊234頁：凱旋歓迎会に於ける祝辞（朗読） 長野光詮編
戦時下式辞挨拶演説集より抜萃。の由の注記アリ。

81) 聖戦下の式辞と挨拶集（外）

A：三五判 1冊

カバ：白地に朱と黄で意匠。軍機、城の塔に日の丸。「＜國民の進むべき道＞
＜青年雄辨奨励會編／聖戦下の式辞と挨拶集／＜附一般選舉演説＞／東京大
阪・文英堂發發行」。背：「聖戦下の式辞と挨拶集 ＜附 一般選舉演説＞」。
（停）¥.75。

表紙：枯芝色ひび割れ模様。紺字印刷。青年雄辨奨励會編／聖戦下の式辞と
挨拶集＜附一般演説挨拶＞／文英堂發行」。背：書名と編輯元。ウに社
章と¥60。

扉：朱色刷り、「青年雄辯奨励會編／聖戦下の式辞と挨拶集／＜附一般演説
挨拶＞／文英堂發行」。國民の進むべき道（内閣告諭）昭和12年9月9日 内
閣総理大臣 公爵 近衛文麿」、時局に處する國民の覚悟 内閣総理大臣
近衛文麿」。聖戦下の式辞と挨拶目次：國民の進むべき道、時局に處する國
民の覚悟、出征将兵歓送激励、陣中将士へ感謝と慰問、白衣勇士歓迎と慰

問、従軍並に慰問使等の歓送、戦没将士弔辞と挨拶、戦捷祝賀、凱旋将士歓迎。一般慶祝：銀婚式祝辞、結婚披露宴に於ける媒酌人の挨拶等もアリ。また、送別表忠建碑、追悼弔詞、選挙演説挨拶」アリ。内題：聖戦下の式辭と挨拶／出征将兵歓送激励」。尾題無し。274頁＋奥＋3。刊記：昭和14年7月5日印刷、昭和14年7月10日發行、昭和15年2月5日再版發行、昭和15年6月20日七版發行／定価75銭／著作権所有〔聖戦下式辭挨拶集〕／著作者 青年雄辨奨励會代表者・久保直之、發行者 大阪市西区靱下通2丁目32番地・益井俊二、印刷者 大阪市南区順慶町1丁目37番地・大谷末吉／發行所 東京市神田区須田町1丁目6番地、大阪市西区靱下通2丁目32番地・文英堂」。ウラに久保直之「くすぐ間に合ふ」標準書翰文」、聖戦慰問奨励會編「慰問文の書き方」、「<昭和>日用いろは辞典<音畫両引>（三五判350余頁）、表紙写真付き3点の内容案内付き広告アリ。

B：昭和16年2月20日九版

カバ欠。表紙：Aと同じ。「¥.75」とアリ。刊記：出版年記、定価の部分が異なる。昭和14年7月5日印刷、昭和14年7月10日發行、昭和15年2月5日再版發行、昭和15年6月20日七版發行、昭和16年2月20日九版發行／定価七拾五銭」。広告は同。

82) 慰問の手紙文（外）

B6判 1冊

表紙：香色地に紺で書名等印刷。「陸軍少佐三木軍司殿推薦、聖戦慰問奨励會編／慰問の手紙／附<戦地の便りと家族の手紙、出征歓送の挨拶」。背も書名と副題。¥.50」。

扉：表紙と同じ、紺刷り。推奨の辞 昭和16年如月 陸軍少佐三木軍司識す」。

序 著者しるす」。慰問の手紙文／目次」 ◇出征、陣中への手紙、一般慰問文、陣中通信、白衣の勇士慰問、戦死弔慰、凱旋」奮戦勇士と家族の手紙、◇銃後の金字塔、◇輝く手記、出征勇士歓送激励の文」、目次（終）。内題無し。192頁＋奥。

刊記：昭和16年3月27日印刷、昭和16年4月1日発行、昭和16年8月20日再版
発行／定価金50銭／著作権所有／編輯者 久保直之、発行者 大阪市西区靱
下通2丁目32番地・益井淳次、印刷者 大阪市西区南堀江通5丁目・文英堂
印刷部／発売所 大阪市浪速区元町2丁目67・祐文堂」。

83) <大東亜戦>慰問手紙文

B6判 1冊

表紙：黄と薄紫で空と戦車。右横書きで「<最新>大東亜戦慰問文／留守信
綱編著／東京・天泉社」。

背も「最新」および版元名を除き表紙と同じ。(停) ㍶.60」。扉：留守信綱
著／大東亜戦慰問文／新體制版」。はしがき 昭和17年2月 編著者識」。目
次：第1章 慰問文の書き方、2.出征家族より：…米英打倒の征戦に尽忠報
國の誠を（父より）、3.知己友人より：…空襲空襲！綜合訓練の実況を（友
人より）、4. 一般銃後より：…憎らしいのはアメリカです（農村の少国民
より）…衣料消費に点数式切符制が施行されました、5. 団体代表より：…
慰問袋に添へて、6. 白衣の勇士慰問：失望落胆せず再び戦地へ（父より）
…武人は死所を選びその名を惜しむ、7.勇士の遺家族慰問：この上なき御名
誉…戦死した級友の父に送る、8.戦地より銃後へ：悲壮な戦況！肉弾戦…佛
印進駐の部隊より、9.戦地より傷痍軍人に、10.大東亜戦争だより：ハワイ海
戦赫々たる大戦果を…蘭印の戦慄！その咽頭部の完全制壓を」。

内題：<大東亜戦>慰問手紙文／留守信綱著」。尾題無し。258頁＋奥。末に
「備忘録」空欄2頁アリ。刊記：昭和17年6月25日印刷、昭和17年6月30日発
行〔10000〕／出文協届月日／昭和17.3.3／大東亜戦慰問文／配給元 東京市
神田区淡路二町丁目(ママ)9番地・日本出版配給株式会社／定価金6拾銭、
著者留守信綱、発行者 東京市神田区猿楽町2丁目8・小泉準一、印刷者
東京市麴町区飯田町2ノ20・大島栄、印刷所 東京市麴町区飯田町2ノ20・
栄恒社印刷工場／発行所 東京市神田区猿楽町2丁目8・天泉社／日本出版
文化協会々員番号119036」。

84) 女子慰問手紙文

B6判1冊

表紙：山吹、赤、黒で兜を被った兵士の横顔、「へいたいさま江」とある便箋と封筒、ユリの花、空飛ぶ爆撃機の絵図。赤字で女子慰問手紙文」の書名と黒字で「東京 華陽堂書店」の版元名。目次：第1章、戦時下女子手紙文の書め方、2.充分なるお働きを…結婚まもなき戦線の夫に一若妻より一、3.戦線の勇士へ…隣組出身の勇士へ一町の隣組女性より一、4. 白衣の勇士へ、5.銃後の感激を集めて、6. 戦時下書簡文例」。内題無し。尾題：＜慰問文範＞女子慰問の手紙（終）。114頁＋奥。30、31頁上部1字分印刷欠。

刊記：昭和18年4月27日印刷、昭和18年5月5日発行／版權所有／文協会員番号・106526番／（停）定価80銭／編者 華陽堂書店出版部、発行兼印刷者 東京市神田区神保町1ノ42・石神安雄、発行所 東京市神田区神保町1ノ42・華陽堂書店出版部・岐阜市神田町3ノ2／配給所 日本出版配給株式会社。ウラに愛国百人一首解釈、最新流行愛唱歌集、図解女子日常礼法、タビカバー＜実物＞型紙集、タビ実物型紙集、同の6点の広告アリ。

85) ＜陸海＞軍人用文 附祝文演説資料

文庫判 1冊。松葉色クロス装 金字で「陸海軍人用文＜附祝文演説資料＞」の書名。

扉：嵩山堂編纂／陸海軍人用文＜附祝文演説資料＞／東京 嵩山堂発行」。

勅諭、明治15年1月4日」。(朱刷り)、讀法」。(朱刷り)

自序、明治37年9月4日遼陽陥落ノ公報ニ接シタル時欣然之ヲ識ス、著者」。

目次：第壹章、文法、弑、書翰文、〔平時門〕、〔戦時門〕…広瀬中佐ノ壮烈ナル戦死ニ付テ申送クル文、三、作文、四、演舌、五、軍人吊祭文、吊詞・広瀬武夫君ノ霊ニ告グ…」。

内題：＜陸海＞軍人用文／附祝文演説資料／嵩山堂編輯局編輯」。尾題：陸海軍人用文終」。

404頁＋奥。刊記：明治37年11月1日印刷、明治37年11月9日発行／陸海軍人用文・著作権所有・定価金40銭／著作兼発行印刷者 東京市日本橋区通壺丁

目17番地・青木恒三郎、印刷所 大阪市西区新町北通壺丁目65番邸・嵩山堂印刷部、発行所 大阪市東区心斎橋筋博労町角・青木嵩山堂、発行所 東京市日本橋区通壺丁目角・青木嵩山堂、売捌所 勢州四日市市堅町・嵩山堂支店」。*奥付ウに「戦捷の大日本国民は見よ」として「＜日本＞陸軍軍人必携」「＜日本＞海軍軍人必携」の広告アリ。

*346～377頁に「附軍人作文熟語字典」アリ。イロハ順、意味説明無し：(い部)威嚇砲撃、威力偵察、威声震響、幾回ノ攻撃、一以テ百ニ当ル～(す部)…^{すなは} ^う輒チ搏チテ之ヲトス、少シク辟易シ、数回ノ^{はいじく}敗衄ニ、数回ノ戦没ハ大ニ兵数ヲ減少シ」。

86) ＜軍事摘要＞軍人文鑑

B6判 厚冊 2巻1冊

表紙：「＜陸軍大臣御認可＞尚武會編纂／＜軍事摘要＞軍人文範／＜版權所有＞東京 松榮堂發行」。背：＜軍事摘要＞軍人文範 全 松榮堂發行」。遊び紙 桃色。詔書、明治5年壬申11月28日」。徴兵告諭、明治11年1月28日太政官」。勅諭、明治15年1月4日」。読法」。宣戦の詔勅、御名御璽、明治27年8月1日」、征清終局の詔勅、御名御璽、明治28年4月21日」、勅諭明治28年5月13日、御名御璽」。皇室並皇族一覧、陸海軍人階級一覧表、海軍軍人階級一覧表、(色刷り・折込み)勲章、日本帝國旗章、陸軍各兵科定色、第1種帽、第2種帽、正衣、軍衣、近衛、師団、袖章、外套、飾帶、袴、襟章、肩章、正帽前立、懸章、飾緒、鞍褥及鞍囊外覆、正劍及軍刀、(白黒)歩兵村田銃分解図」。叙勲ノ種別：勲章記章佩用心得～金鷄勲章佩用式」。軍隊内務書：第1章・総則～28・報告ノ定則」。頭書：陸軍武官階級～服装規則」、頭書終」。緒言：明治28年10月 尚武會謹述」。

＜軍事摘要＞軍人文範目次」：1.兵時門、2.賀祝門、3.弔慰門、4.問候門、5.寄贈門、6.誘引門、7.貸借門、8.謝礼門、9.謝絶門、10.謝罪門、11.送致門、13.(ママ)(本文も)招聘門、13.忠告門、14.勸励門、10.(ママ)(本文も)質問門、15.依頼門、16.催設門」、名家尺牘」。＜軍事摘要＞軍人文範目次終」。＜軍事摘要＞軍人文範下編目次」。頌表之部、祝賀之部、送迎之部、祭文之

部、歛誘之部、感謝之部、恤兵之部、建議之部、慰問門、◎附録 記事門、◎上欄目次／兵語」（イロハ順）。イ、井ノ部：一等兵・上等兵ト二等兵ノ間ナリ、一等卒・同上、一般方略・フツウノテダテ〜スノ部…出師・イクサヲダス、水泳・ヲヨギ、寸功・スコシノテガラ」。

内題：＜軍事摘要＞軍人文範上編（下編）／尚武會編纂」、尾題：＜軍事摘用（まま）＞軍人文範終」、兵語終」。506頁＋奥。折込アリ。刊記：明治28年11月13日印刷、同28年11月22日発行、同32年11月15日五版／軍人文範／版權所有／編纂者 尚武會、発行者 東京市日本橋区橘町1丁目1番地・大草常章、発行所 東京市日本橋区橘町1丁目1番地・松栄堂書店、印刷者 東京市日本橋区新和泉町1番地・瀧川民治郎、印刷所 東京市日本橋区新和泉町1番地：今古堂」。

87) 祝文資料

文庫判 1冊

表紙：黄、橙色で意匠、黒印字。「貴族院議員金井之恭君題辭、城北 秋野散史著述／祝文資料／大阪書肆 明昇堂発行」。扉：桃色紙、「祝文資料 MEISHODO」。題辭：金洞題」。

序：秋野散史撰」。凡例：編者識」。

祝文資料目録：開業門：書籍出版会社開業祝文、全社長答辭～材木商開業祝文、全答辭」、開園門、開校門、落成門、会同門：新年宴会祝文～夜学会開會祝文、授与式門、祝日門、祭日門、幸福門：勲章拝受祝宴席上祝文～会社得益祝々宴席上祝文、全社長答辭、人事門、雜門」。内題：祝文資料、尾題：祝文資料終」。293頁＋奥＋広告。上欄に書名、柱に指標アリ。

刊記：明治33年8月10日印刷、明治33年8月20日発行／複製不許／発行者 大阪市東区北久宝寺町4丁目35番邸・濱本伊三郎、印刷者 大阪市西区阿波座61番屋敷、大阪製本印刷株式会社代表者・矢野松吉、発売元 大阪市中心斎橋筋北久宝寺町北入・濱本明昇堂」。

広告：橙色紙、「明昇堂新刊発行広告」明昇堂・濱本伊三郎敬白14頁あり、本書や、藤井乙男・操觚便覧、武安衛・＜中等教育＞新編策文書など13の内

容案内付き広告を載せる。

註1、幕末のものであるが、安政4年初版〔慶應元年〕再版の「書用筆林寶鑑」の頭書16オ～17ウに「學者卮言盡」として、足下、不佞、僕以下53語が載る。「早學問」に比すと、故人、情郎、劇場等を欠くが、末に疑惑：うたがひのことは、恐懼：おそるること、龜鑑：ものゝ手ほんにする事の同書には無い3語が付く。

*昭和15年3月初、4月再版の日高直治（爾）編「＜ペン字入＞現代手紙大辞典」（富文館）は、イキナリ目次には無い第4、軍人慰問文から始まる。その後に内題・著者名付の第1・四季社交文が続き、第4が目次通り弔慰文となっている。しゃれた装丁になっているので、時勢を慮り軍事色を強くしたものと思われる。

III

以上軍人用文、慰問文を中心に紹介して来たが、それらから離れば、以下のようなものがある。管見に入ったものの中から恣意的に挙げる。紙数の関係から書誌事項は簡略にとどめる。

88) 嘉永5年・早引用文章

中本 1冊

表紙：縹色無地紙。題簽：子持ち梓付き短冊形白紙。「早引用文章 全」。

封面：頭書俗字節用入／早引用文章全／東都・新庄堂上梓」。

目録：一、年始の文、同返辞、一、梅見の文、一、初午稻荷詣の文～大水見廻の文～疱瘡見舞の文～遊女狂ひする人を戒む文～誹諧を賀す文、借用申金子の事、金子為替手形之事～誤り證文之事、御関所手形の事、諸國御関所附」。73通+1（御関所附）。

頭書：^{はやびきせつようしゅう}早引節用集」。

*「早引」とあるが、早引形式では無い。有界6行。い・伊、イ：一筆、宥免、致候、委細、如何～す：…^{すこびたり}素媚、垂跡、随意者、^{すいかつら}忍冬、^{すいものぐさ}酸漿草」。119丁。93ウまでは5行、94オ借用申金子之事から6行。

刊記：嘉永五子歳秋新刻／東都 新庄堂壽梓」。（空き多く罫線の跡も見える。或いは後印か）。

89) 長橋間右衛門・〈頭書漢語字解〉女四季用文章（外）

中本1冊。題簽：子持ち杵短冊形紙。「〈頭書漢語字解〉／長橋間右衛門著／女四季用文章 完」。巻頭色刷り口絵2図アリ。

目次：女四季文章目次／大阪・長橋間右衛門著并書：年始のふみ…歳末に酒筵を催ふして客を招くふみ、同しくこたへふみ」、右総計27章」。（＊実数は28アリ）

頭書目録：漢語字解、^{につぼんさんぶつ}内國物産（＊本文フリカナは「（ないこくぶつさん）、世界國名、^{せいやうことば}洋語（＊本文には「（いきりすことば）英語」とアリ。「英語」は處女ハがいる、先生ハますとる、齒ハ一つ、象ハいるばんど、歌ハそんぐ等といった程度のもの。内題：女四季文章」。頭書に「漢語字類」。119丁。本文5行、頭書7行。

「漢語字類」は、「條理すぢみち、賞金こほうびきん、集合よりあつまり～陳腐ふるし、大任をもやく、怠惰おこたる」。202語。

刊記：後ろ見返し。「山陽遺稿 中本全6冊」～「〈中等作法〉漢文軌範中本2冊」の6点を上下2段に出し、界線を置いて左に「和漢諸先生法帖手本類製本所／榮林堂 大坂本街松屋町北へ入・中野啓藏版」とある。刊行年月記載ナシ。

「内國物産」は山城：綾。錦。絹。布。鴨川晒。～琉球：…晷表。塩。豚。「世界國名」は亜細亞洲・大日本～志邊里屋、阿非利加洲・衛士府都～^{なるえい}那耳同、北亞米利加洲、南亞米利加洲、大洋洲」。

90) 小川棟宇・〈才子必携〉文語活法

中本 1冊。題簽：子持ち杵付き短冊形白紙。「〈才子必携〉文語活法＜小川棟宇編輯＞全」。

封面：小川棟宇纂輯／〈才子必携〉文語活法／〈明治11年6月發兌〉三書堂梓」。明治戊寅（11年）序。

目次：〈才子必携〉文語活法／目次：四季之部、附草木、紀戰之部、紀政之部、附忠義孝烈、雜之部」。

内題：〈才子必携〉文語活法／大阪 小川棟宇編輯」。89丁+奥。有界9行。

刊記：明治11年3月27日御届、同年6月出版、定価50銭／編輯人
大阪府平民 小川棟宇・第貳大区三小区曾根崎村261番地、出版人
同、辻本信太郎・第一大区八小区安土甲4丁目4番地、同、小谷卯兵衛・心
斎橋筋安土町北へ入、發兌人 同、俵新輔・堂島船大工町櫻橋筋角」。

＊58オ～終丁まで「雑語之部」があるが、これは見出し語の意味から50音順
に配列してある。

アノ部：^{クワンス}關・^{ガカリヤウ}アヅカルコト、^{ナカウナンシ}愕了・アキレルト云フコト、那好男子・アノ
ヨイオトコ、^{カレノタク}彼宅・アレノウチ～ワノ部：…^{シシン}私親・ワタクシノシンルイ、
^{ラウケン}郎君・^{ヒセイ}ワカヒヒト、鄙生・ワタシ」。

91) 三尾重定・＜字義註解＞和漢作文大成

半紙本 2巻2冊

題簽：＜字義註解＞和漢作文大成＜三尾重定纂輯＞上（下）」。

封面：三尾重定纂輯、福島順則校訂／＜字義註解＞和漢作文大成／東京書
肆・東崖堂藏」。自叙：明治11年秋9月 三尾重定」。

目次：和漢作文大成目次：上巻 贈未會人書、回答～贈詩於人書、回答」、
古文之部」。下巻 短語上（花實饋贈及ヒ時令請待誘引等ノ語ヲ聚ム）、同中
（壽賀及ヒ弔慰請求等ノ語ヲ聚ム）、同下（雜事テ用フ可キ一切ノ語ヲ五十音
ニ部類シテーツニ之ヲ合セ出ス）」

龍頭要字・上巻 和辨之類、同下巻 分辦之類」。通計：文・百四十四篇
解及熟字、要字・四百八十九字。

内題：＜字義註解＞和漢作文大成卷之上（下）／三尾重定纂輯、福島順則校
訂」。尾題：＜字義註解＞和漢作文大成卷之上（下）終」。

（上）67、（下）77丁半。（上）は行草体の本文の後に、楷書体の類似文を載せ、
「解」として意味説明を附す。

刊記：明治11年2月16日版權免許、同年9月30日出版發兌／編輯者 岐阜縣
士族 三尾重定・東京第5大区4小区末廣町38番地寄留、出版主 同 東崖
堂 富田彦次郎・同第1大区14小区大傳馬町2丁目2番地／發兌書肆 東
京・東崖堂、大阪・同舗、美濃岐阜・同舗／諸國發行書肆 大阪・河内屋茂

兵衛、同河内屋喜兵衛～甲府・内藤傳右衛門、遠州濱松・白木屋健次郎～横濱・金港堂一里」36名、東京発行書肆 須原屋茂兵衛～中村熊次郎」18名。
鼈頭（上）「和辨ノ類」は、イヘドモ（雖）、イハンヤ（況）、イマダ（未）～ジンヂ（恁地）、ヒツケウ（卑竟）、ヒタスラ（只管）」、助語類：焉、牟、而～之、爾、者」
（下）「分辨ノ類」は、イフ（言）、イフ（道）、イフ（曰）～ス、ム（侑）、ス、ム（晋）、ス、ム（奨）」。

92) 檜崎隆存・＜萬民用文＞普通作文必携

中本 鉛版、活版、2巻2冊

題簽：「＜萬民用文＞普通作文必携＜檜崎隆存編輯、青木東園浄書＞上（下）」。
凡例：明治十一年六月念三日緑蔭深處ノ小田廬ニシテ誌ス 編輯者」。

目次：＜萬民用文＞普通作文必携目次／卷之上」、卷之下」、作文摘語目次」。
卷之上は、1新歳之文、2同復簡～61新居を賀する文、62同復簡」、卷之下は、63轉宅を報ずる文、64洋行を送る文～105友人の安否を尋る文、106同復簡」。

「作文摘語」は基本イロハ順に配列し中に類語を入れ、また末に通用助字を載せる。以ノ部：以来・コノノチ、尔来・コノゴロ、已来・コノカタ、
将来・ユクスエ…通用助字：幾、禱、祈～寸ノ部：…數年～年々、通用助字：直、栖、乃～吹烟草、碎之男、筋道」。

（卷下）「雜語大全」：時候・1月部：寒氣甚敷～12月部：…北風如裂」。月異名、國祭、晝、夜～今、來」、簡端、結尾、称人居處、自称居處、祖父、他父、自父～師、使、婢、照察、存念～莞爾、同意～受納、感謝、称人郷里…人名雜称、開封」。

内題：＜萬民用文＞普通作文必携卷上（卷下）／大阪・檜崎隆存著、東京・青木東園書」。于時明治11年第6月下浣浄書卒 東園畊夫」。

（上）131、（下）136丁+奥。本文の後に、同一趣旨の替文を附す。本文5行、替文は8行。

刊記：明治11年8月7日版權免許、同年10月出版發兌／編輯人 大阪府下平

民 檜寄隆存・第6大区3小区上福島村820番地、出版人 同 三木美記・第1大区7小区北久寶寺町4丁目13番地、発行人 同 岡島真七・第1大区8小区本町4丁目12番地」。

* 卷下13ウ火事見舞之文の替文に、「近日人力車早引にて駄付可申候」云々とアル。

93) <頭書文詞伊呂波字引>小學雅文纂言 (外)

半紙本 3巻3冊。題簽：<頭書文詞伊呂波字引>小學雅文纂言 天(地、人)<岡三慶蒐集>。封面：紅色紙。中央に<頭書文詞伊呂波字引>小學雅文纂言<天(地、人)之卷>の書名、右に「東京三慶岡道明卿氏蒐集、同門人大塚義守校」、左に「東京書肆 正榮堂鈐」。

小學雅文纂言序：漢文体、明治12年第1月・岡道明卿氏題」、松琳藤延書」。凡例：岡三慶老人再ビ誌ルス」。小學雅文纂言天(地、人)之卷目次：(天)朝野門、國土門、文墨門、(地)山行門、石穴門、觀瀾門、通用門、(人)戰鬪門、攻守門、水火戰攻門、通用門」。

頭書文詞伊呂波字引(天)伊字部～多字部、(地)曾字部～阿字部、(人)左字部～寸字部。これは同訓異字を示したもので、例えば(天)伊字部は、イフ：言、曰、云、謂、為、以、称の7字を挙げてその違いを示し、(人)寸字部スミヤカでは速、疾、駛、迅、急、過、丞の7字を挙げ説く。また、その後に「必要名語辞集」として正兵、奇兵、梟将^{セイヘイ}、主謀、偵人以下を挙げ説明を加える。次いで「称呼集」として祖父ノ称～朋友ノ称を挙げる。刊記：明治12年1月22日版權免許 定価金40錢／著者 岡三慶・芝区愛宕下町1丁目4番地、出版人 内田彌兵衛・日本橋区横山町2丁目16番地」。

94) 鈴木貞次郎・<開明両点>大全消息往来

中本 1冊 題簽：<開明両点>／鈴木貞次郎編／大全消息往来 全」。

封面：「西野古海閣、鈴木貞次郎編／定価15錢／<開明両点>大全消息往来／東京書肆・山静堂梓」内題：<開明両点>大全消息往来／鈴木貞次郎編」。有界5行。頭書は「布告新聞漢語字類」。イロハ分け。有界10行。い：遺漏、

遺忘、遺失～す：…寸陰、寸志、髓腦」。52丁+奥。

刊記：明治11年12月23日版權免許、同12年4月1日出版／定価15錢／編者
千葉縣平民 鈴木貞次郎・日本橋区八丁堀三代町寄留、出版人 東京府平民
山崎清七・日本橋区小伝馬町3丁目」。

95) 福井淳・＜鼈頭作文類語＞明治文證大全

中本 2巻2冊。題簽：＜鼈頭作文類語＞明治文證大全＜福井淳著述、名和
對月書＞乾（坤）」。巻頭に銅版見開き口絵「大阪中之島公園風景真圖」ア
リ。＜鼈頭作文類語＞明治文證大全目録／文章之部・上之巻、①年甫ノ文、
②右ニ報スル文～64弔喪ノ文、65右ニ答フル文」、

文章之部・下之巻、①醫ヲ求ル文、②右ニ報スル文～41延引断ノ文、42世
話ニナリシ礼文」。諸願届之部・1田畑書入質ノ証～18妻離縁ノ証」。鼈頭目
録之部・文章以呂波引類語」、諸願之部・1酒造高免許鑑札願～23諸藝師營
業願」、諸届之部・1出産御届～12養子御届」。

内題：明治文章證大全巻上（巻下）／福井淳著。（上）102、（下）81丁+奥。
本文5行、頭書10乃至11行。刊記：後ろ見返し匡郭内。右に陰刻で「文部省
圖書專賣所」とあり、界線を置いて左に「明治19年3月10日出版御届、同年
4月24日刻成出版／定価金50錢／著述者 大阪府平民 福井淳・東区石罎1
丁目14番地、出版人 大阪府平民 花井卯助・東区安土町4丁目11番地」と
記す。

「鼈頭作文類語」はイロハ順。伊・祝^{イワヒ}：嘉祝・ヨロコビイハイ、嘉儀・ヨロ
コビノギシキ～寸…^{スケナシ、スコシ}少^{イワヒ}：…輕微、兎毫・ウノケホド、浅瑣・ソマツデ
スコシ、松葉・スコシノココロザシ」。末に「イ・イサ、カ、シ・少々ノ部
ミアワスベシ」とあり。

96) 安田義和・＜高等論説＞作文軌範

中本 銅版2巻2冊 3階本。題簽：＜高等記事論説＞作文軌範＜重野樗堂
校閱、安田義和編輯＞乾（坤）」。

封面：朱色紙。「鹿児島・重野樗堂校閱、信陽・安田義和編輯／＜高等記事

論説＞作文軌範＜全二冊＞／＜明治15年5月6日、版權免許＞旭昇堂蔵」。

＊凡例：明治15年4月 編者識」、…而シテ上層ニ助字ノ一端ヲ解記シ、或ハ詩語碎金、幼學便覽等ノ中ヨリ、文章ニ用サル熟語ヲ拔萃シテ、之ヲ記載セル者モ亦尠カラス…只々世人ヲ瞞著スルト、紙数ヲ貪ルトノニニ過ザルノミ」云々とあり、また、「作文大意」で…古ヨリ翻刻及ビ編輯刊行スル所の字書、一トシテ其正ヲ得ル者アルヲ見ズ、毛利貞齋ガ編纂セル大廣益會玉篇、鎌田環齋ガ編輯セル大廣益正字通、山崎美成ガ輯録セル文選字引ヲ始トシテ、玉篇、四聲字林等、誤謬ノ甚シキ、論ヲ待ズ、況ヤ其他ノ字書、及ビ近世坊間ニ於テ刊行スル所ノ字引字類ノ如キニ至リテハ、杜撰無稽極レリト謂フベシ…」西野古海識」』とある。凡例と共に厳しい評である。

（上）73、（下）70丁＋奥3＋旭昇堂蔵版目録」。内題：①上段に助虚字解・50音順、②文語類苑：天文時候～雑語、③本文＜高等論説＞作文軌範卷之上（下）／重野櫻堂校閲、安田義和編輯」。助虚字解は阿部：ア、・差、噫、意～和部：ワツカニ…僅、劣。

刊記：明治15年5月6日版權免許、同年10月日出版／編輯人 長野縣士族 安田義和・神田区美土代町2丁目壺番地寄留、出版人 東京府平民 加藤正七・日本橋区檜物町8番地、発兌人 同平民 齋藤榮作・同馬喰町貳丁目」、各國発兌書肆／大阪・柳原喜兵衛、同前川善兵衛～東京・郁文堂」106軒。

97) 服部權・＜小學生徒＞作文稽古本

中本 鉛版1冊 表紙：「＜小學生徒・鼈頭・いろは分字類＞／作文稽古本完／＜蓼水服部權編輯＞／＜盛文閣・煥乎堂合梓」。＜小學生徒＞作文稽古本／目次」。慶賀之部：新年を賀する文～豊年萬作を祝する文」、誘引之部：花見誘引の文～同（芝居見物誘引）再返書」、招待之部：新年宴会に友を招く文～同（開店）返書」、凶弔之部：親を喪ひたる人を弔ふ文～同（盜難見舞）返書」、餽遺之部：草花を贈る文～同（餞別）返書」、依頼之部：人之在宅を頼む文～借地依頼之文」、慰問之部：故郷の両親を訪ふ文～安否を父母に報する文」、雑之部：書籍注文之文～同（英語研究を促す文）返書」。末に「合計86題150章」とアリ。内題：＜小學生徒＞作文稽古本／蓼水服部權編

輯」。132頁。刊記：明治22年4月12日印刷、全年4月18日出版／版權所有（煥乎堂藏版之証・吉田鐵三郎とある水色大型検印紙を貼る）／編輯者 群馬縣士族 服部權・上野國西群馬郡高崎宮本町45番地、発行者 群馬縣平民 吉田鉄三郎・上野國西群馬郡高崎田町22番地、発行兼印刷者 埼玉縣平民 加藤芳太郎・東京々橋区五郎兵衛町22番地、発売人 東京府平民 小林喜右衛門・東京日本橋区新大坂町、全 群馬縣平民 高橋常藏・上州前橋面輪町」。

98) 教育散士・帝國普通作文

中本 鉛版1冊。題簽：「帝國普通作文 教育散士編 全」。目次：帝國普通作文／目錄：慶賀之部：年始之文、同文、同文、同返書、婚姻を祝する文～博覽會受賞を賀する文、同返書」20、招待之部：新年宴会に友を招く文、同返書～新築開店に人を招く文」34、誘引之部：觀雪人を誘ふ文～芝居見物誘引之文、同返書」48、慰問之部：寒中見舞之文～同返書」20、餽遺之部：早梅を贈る文～徴兵入營を送る文、同返書」14、報知之部：開校を報する文～豊作を報する文、転居を報する文」9、依頼之部：買物依頼之文～新聞配達を頼む文」15、照会之部：依頼之件問合之文～商況問合之文、同返書」16、雜之部：作文書注文之文～鑛山鑒定報告之文」。末に「合計九拾五題壹百四拾八章」とアリ。また、鼈頭いろは引用語、同書簡語彙、同受取書文例、同諸願届書文例、同諸証書文例」とアリ。

内題：帝國普通作文／教育散士編」。本文上欄に「＜鼈頭＞いろは引用語」。イナヤ否、イタム痛、イタル到…スガホ素顔、スンカ寸暇。次いで「書簡語彙」として他の書簡、我か書簡の起語～朋友の称、協附の語、結尾の語、時候の語」、文例」。118頁。

刊記：「明治24年3月13日印刷、全年全月16日出版／版權所有／発行者 東京市本所区林町2丁目30番地・中島久徴同居・神田松衛、発行者下野國宇都宮大字大工町27番地・田中正太郎、印刷者 東京市神田区旅籠町1丁目7番地・木村徳太郎、大賣捌所 各府縣書肆」。

99) 堀中東州・＜頭書熟語＞帝國普通用文

B6判 活版1冊

表紙：「堀中東洲編輯 版權所有／＜頭書熟語＞帝國普通用文／＜版權所有／東京・松榮堂發行」。目次：＜頭書熟語＞帝國普通用文目次」。祝賀類（新年を祝する文～歳末祝ひの文、同返事）、贈送類（仕立物を送る文～洋行を送る文、同返事）、通知類（手代差向案内の文～展覧会を報する文）、照会類（書籍代価を照会する文～時好の適否を問合する文、同返事）、誘引類（山遊誘引の文～商工会傍聴誘引の文）、招待類（工事落成案内の文～天長節に友を招く文、同返事）、催誘類（入会を促す文～注文品催促の文、同返事）、奨励類（売品に付忠告する文～新聞購読を勧むる文）、候問類（暑中見舞の文～暫らく逢ざる人を訪ふ文、同返事）、謝礼類（送金延引を謝する文～忌明の礼状）、返済類（雛形を返済する文～書物を返戻する文）、請托類（仕立物を頼む文～入社を請ふ文）、謝絶類（談判手切の文～約束を断る文）、雜類（和談を申入る文～一身上の方向を質問する文）。

内題：＜頭書熟語＞帝國普通用文／堀中東州編」。上欄頭書は「熟語」。

193＋奥＋（広告）22頁。

刊記：明治27年3月6日印刷、明治27年3月10日発行、明治28年12月15日三版／版權所有／発行者 東京市日本橋区橘町1丁目1番地・大草常章、編輯者 同神田区裏猿樂町8番地・堀中東州、発行元 同日本橋区橘町1丁目1番地・松榮堂書店、大売捌 上州前橋曲輪町・高橋煥乎堂、同高崎田町2丁目・吉田煥乎堂、印刷者 東京市日本橋区新和泉町1番地・瀧川三代太郎、印刷所 東京市日本橋区新和泉町1番地・今古堂活版所」。

広告：森昌作・津田秀林：＜音画両引＞＜松榮堂版＞二書合本、＜発明秘術＞製法五百題、＜活用自在＞用文五千題、津田秀林：＜新撰＞早引節用集大全、萩原乙彦：漢語二重字引等数多し。＊頭書「熟語」（尾題：熟言）はイロハ順、2字熟字。い部：一天・せかいぢう、一邊・ひとつのはし～す部：…酔後・ゑふたのち、酔中・よひのなか」。

100) 池田蘆洲・帝國作文全書

B6判 2巻I冊

表紙：「＜健運靈動＞／三島中洲先生序文、池田蘆洲先生著述／帝國作文全書／大阪・圭文堂藏版（印・柏原）」。
凡例：明治24年7月東京麹坊ノ寓舎ニ識ス 池田蘆洲」。

目次：帝國作文全書目次」。巻首：文體ヲ論ズ、巻首欄外目次：文法辨精。（巻之上）：通俗尺牘門・新年ヲ賀スル文～死去ヲ吊ノ文」、近體尺牘門・新禧ヲ賀スル文～遊蕩生ヲ戒ムル文、記門・遊記（松島遊ブ記～石卷山ノ記）、亭園記、雑部、紀事、紀戦、傳門」。（巻之下）：小学文範ノ序…明治小字典ノ序…友人某ノ崎陽ニ遊ブヲ送ル序、論門、説門、辨門、解門、喩門、題跋書後門、讀門、賛門、銘門、祝文門、祭文門、雜著門」。欄外上層目次：巻上・尺牘活套、異名叢（時令部、地理部、人倫部、気形部、草木部、飲食部」。巻下・茄酒、茶」、器財部、果木部、字海探源：50音順 ア部・アム、アラタ～ワ部…

ワザ、ワカツ、ワタクシ」。同訓異字、読み・意義説明アリ。金言類：淮南子ニ曰ク…ニウトン曰ク、ジエウオンス曰ク」。

内題：帝國作文全書巻首」、帝國作文全書巻之下／東京・池田蘆洲編著、浪華・高木越橋校正」。292頁（上144ノ3マデ、下145～）+奥」。ノンブル上巻末乱れアリ。跋：書帝國作文全書後」、明治辛卯（24年）國會創開之後3月、撰於東京民報社編輯楼上、東瀛漫人片山季二」。漢文体。

刊記：明治24年7月19日出版、明治32年2月3日第31版／實価金30銭／版權所有／著作者 大阪府平民 池田四郎二郎・東京市麴町区壹番丁44番地寄留、発行者 大阪府平民 柏原政次郎・大阪市南区北炭屋町187番屋敷、印刷者 大阪府平民 前田菊松・大阪市南区鱸谷東之町175番屋敷周擴社／大阪販売所 大坂市東区備後町4丁目・梅原龜七～同東区博労町4丁目・中川勘助」16軒。広告1頁を置いて「大阪市内売捌書林人名」として、大阪市東区備後町4丁目・小谷卯三郎～同南区順慶町4丁目・宮部書店」52軒を上下2段に出す。

101) 永峰秀樹・〈興産教授〉農學初歩

半紙本 3巻3冊

表紙：黄色地紙に卍繋ぎ模様空押し。題簽：〈興産教授〉農學初歩 永峯秀樹編輯 中（下）。上巻は剥落。封面：桃色紙、飾り枠、タテ3ツ割「〈版權免許〉永峯秀樹纂譯／〈興産教授〉農學初歩〈三冊〉／甲府 内藤氏蔵版」。：〈興産教授〉農學初歩序」明治12季7月 永峰秀樹識」。

目次：〈興産教授〉農學初歩目錄／永峰秀樹纂譯」。

内題：〈興産教授〉農學初歩卷之一（～卷之三）／永峰秀樹纂譯」。

有界10行、頭書欄アリ。（1）48、（2）66、（3）31丁＋奥9。

* 卷末に本文掲出順字引アリ。〈興産教授〉農學初歩卷之一（～卷之三）字引」。刊記：（卷3）末に6丁に亘って「諸國發兌書肆」を2段に列記し、後ろ見返しに、「明治11年5月29日版權免許、同12年7月出版／金75錢／纂譯人 静岡縣士族 永峯秀樹・東京麴町区有楽町2丁目2番地、出版人 山梨縣平民 内藤傳右衛門・甲府常盤町4番地、売弘 東京府 同支店・日本橋区通塩町11番地」とある。
「諸國發兌書肆」は、東京・須原屋茂兵衛、同・山城屋佐兵衛～同（肥後熊本）水島貫之、東京通塩町11番地・内藤泰次郎」の234名。この部分は他本と共通のものか。

102) 水谷彦九郎・〈頭書漢語〉明治文章大全（外）

半紙本 1冊

（A）明治19年6月版

表紙：黒地紙に花菱模様空押し。題簽：子持ち枠付き短冊形白紙、「〈頭書漢語〉明治文章大全 完」。封面：水谷彦九郎編輯／〈頭書漢語〉明治文章大全／愛知書林 梶田文光堂梓」。題辭：丙戌（19年）五月 石堂書」。序文：漢文体、明治丙戌夏 南厓飯沼守撰（印・南厓）」。

目錄：〈頭書漢語〉明治文章大全目錄：年始之文、同返事…新聞配達ヲ乞フ文…博覧會ニ誘フ文…汽船問合之文」、口上書式ノ部、送并請取書式、確證之部：借入金証券…委任狀」、公用文諸願届之類：旅行届…屋根看板御願、

フラフ建設願、献金御願」。頭書目録 漢語字類イロハ引之部」、証券印税規則、結尾語、脇付、返書脇付～称姑、称夫、称我身」。内題：（めいぢぶんしやうたいぜん）明治文章大全」。168丁＋奥。本文：行書体5乃至6行。頭書：有界10行、楷書両点。刊記：明治19年5月8日板（ママ）権御願、同年同月15日版權免許、同年6月25日刻成／編輯人 愛知縣士族 水谷彦九郎・名古屋区東州寄町20番邸、出版人 愛知縣平民 梶田勘助・名古屋区鐵炮町28番地」。備考：吉永3455。頭書「廣益漢語字類イロハ引之部」はイ・一世イチダイ、一週・ヒトマハリ、一新・ノコラスアラタニナルヘス・……（葛）薨（同）クサカリ人、一樵クサカリキコリ、一米アヲモノヤコメ」。

（B）明治23年3月版

題簽：新刻、書名等は同。目録、内題以下：A本に同じ。

刊記：明治19年5月8日版權御願、全年全月15日版權免許、全年全月25日刻成、明治23年3月第二版／著作者 愛知縣士族 水谷彦九郎・名古屋区東洲崎町20番邸、發行者 愛知縣平民 梶田勘助・名古屋区鉄炮町23番地」。備考：第二版とあれどAの後印。

（C）明治28年2月版

題簽：＜新撰増補＞明治文章大全 完」。封面：水谷彦九郎編輯／＜新撰増補＞明治文章大全／愛知書肆 梶田文光堂梓」。題辭：ナシ。

序：A、Bとは異文。行書、漢文体。甲午（27年）冬十月 南厓撰并書」。目録：＜新撰増補＞明治文章大全目録：年賀之文（Aとは異文）～出船問合セノ文」。

＊時候・四季に関する文章が並んでいるところに、3通目に「入営後家ニ遣ス文」および答文を、7通目に「兵士昇等ヲ報スル文」、同返事、18通目に「兵役満期ヲ報スル文」、同返事、24通目に「退營後ニ遣ハス文」、右答文を入れるなど、先行するA、Bとの違いを見せている。時局を慮ってのことであろうが、唐突で不自然である。口上書式ノ部、送状并請取書式」諸証文之部、公用文届之部：結婚届～旅行帰宅届」頭書目録：漢語熟字イロハ引之

部」：廣益漢語字類 イロハ引之部」。内題以下本文ともBと異版、新刻。158丁+奥。刊記：明治28年2月10日印刷、明治28年2月20日出版／著作者 名古屋市東洲崎町29番戸・水谷彦九郎、発行者 名古屋市末廣町17番戸・梶田勘助、印刷者 名古屋市八百屋町137番戸・佐藤榮次郎」。

(D) 明治34年6月版

表紙：黒布目地紙に網目模様空押し。題簽：「＜頭書漢語＞明治文章大全 完」。封面：薄桃色紙、「水谷彦九郎編輯／＜頭書漢語＞明治文章大全／愛知書肆 淺見文昌堂梓」。序、目録以下Bの後印。柱刻も封面に「淺見文昌堂梓」とありながら「文光堂蔵」のまま。刊記：（匡郭はBのママ）明治19年5月8日版權御願、全年全月15日版權免許、全年全月25日刻成、明治34年6月第二版（＊卅四と六と二のみ改刻挿入）／著作者 愛知縣士族 水谷彦九郎・名古屋区東洲崎町20番邸、発行者 愛知縣平民 淺見鉦太郎・名古屋市門前町3丁目」。

103) 菱田政次郎・＜鼈頭作文字引＞新撰用文章

中本 鉛版、活版 入れ紙本 1冊

題簽：「＜鼈頭作文字引＞新撰用文章 全」。封面：赤紙。「菱田政次郎著／＜鼈頭作文字引＞新撰用文章／浪越書肆・大成堂蔵梓」。題辭：庚寅夏日〔隔堂書〕。＜鼈頭作文字引＞新撰用文章目録：年始状之文、同返事之文～雪見誘引之文、同返事之文、歳暮之文、同返事之文」43通。○鼈頭作文字引之部 イ部～ス部」。内題：新撰用文章／浪越 菱田政次郎編」。尾題：新選用文章終」。頭書に「作文字解」アリ。「作文字解畢」。72丁+後ろ見返し。刊記：明治24年1月28日印刷、同24年2月2日出版、発行人著作者 愛知縣名古屋市正木町329番戸・菱田政次郎、發行兼印刷者 全(ママ)縣名古屋市本町127番戸・若山文二郎、全(ママ)名古屋市本町5丁目・発売所 大成堂」。後ろ見返しに「＜津島土産＞膝栗毛」～「洋學指南」までの16点を上下2段に挙げ、界線を置いて左に「發賣書肆＜和田屋大成堂＞尾州名古屋本町5丁目・若山文二郎」と記す。＊「作文字解」はイロハ引き、イ部：遺命

テンシノゴユイゴン〜ス部…随意キマ、」。

104) 西森武城・〈初學必携〉作文いろは字引

中本 活版 1冊 **所見本は卷末欠**

表紙：西森武城著／作文いろは字引／東京書肆・聚榮堂蔵版」。扉：桃色紙。
題辭：武城題、久永其顕書」。凡例：〈初學必携〉作文いろは字引」。此書ハ
小學生徒或ハ初學の輩が作文を學ぶ時の参照に供せんが為に作れり…明治23
年第11月 編者誌」。

目録：〈初學必携〉作文いろは字引／目録」。内題：〈初學必携〉いろは字
引／西森武城著」。尾題：〈初學必携〉作文いろは字引終」。

柱に指標とノンブル。2 + 目2 + 110頁。

いノ部：田舎、如何、如何様、如何程、忙敷〜すノ部：…水害、水損、末
廣、数万部、摺立」。*演説、水上警察、停車場、^{すていしよん}幻燈會、國會、郵便等ア
リ。

山田忠雄「近代國語辭書の歩み」下（1981.7）附表目録 1696頁追加（三）
漢語辭書363bに明治21年5月初、25年9月再・東京大川錠吉刊の記載アリ。
また、1726頁・追加五－二にcとして24年1月出版、25年10月再版・美濃半
活版が載る。

105) 西森武城・〈言語自在〉作文捷徑

A 中本 活版 1冊

表紙：黄色無地紙。題簽：子持ち枠付き香色短冊形紙。「〈言語自在〉作文
捷徑 全」。封面：西森武城著／^{さくぶんはやわり}〈言語自在〉作文捷徑全／東京書肆・薰志
堂蔵」。題辭：（書牘者言語之写真也、明治23年第6月 武城自題）。凡例：
〈言語自在〉作文捷徑／凡例」、明治23年第9月 編者武城しるす」。〈言語
自在〉作文捷徑目録」：年始の文、同返事、花見に誘ふ文、同～商標願ひの
手続を問合せる文」、通計一百拾壹題 百八拾壹章」、内題：〈言語自在〉作
文捷徑／西森武城著」。

頭書に「伊呂波類語」（いノ部：今更、今迄、今以〜すノ部…推究、寸猪（マ

マ)、寸簡)。2字熟字中心、稀に意味説明アリ。92頁。

刊記：明治23年10月30日印刷、同年11月1日出版／版權所有／著作者 浅草区御蔵前片町20番地・西森武城、発行者 京橋区南紺屋町1番地・井上勝五郎、印刷者 日本橋区新和泉町1番地・瀧川三代太郎」。

B 2005年9月25日国文学研究資料館・リプリント日本近代文学17。

明治23年11月1日出版。東京・薫志堂井上勝五郎刊。58通。

解説の青田寿美氏によれば、西森には他に明治18年6月刊、明治20年1月刊「生徒必携 作文独稽古」2冊アル由。

106) 三尾重定・〈開化小學〉掌中漢語用文

袖珍本 2巻2冊 頭書：銅版、本文：鉛版（合本1冊）

表紙：縹色無地紙。題簽：〈開化小學〉掌中漢語用文上(下)〈三尾重定編〉、封面：「三尾重定編輯／〈開化小學〉掌中漢語用文／東京・精確堂藏」。

叙：明治13年庚辰10月 史山 三尾重定子恭識」。

目次：〈開化小學〉掌中漢語用文：1 新歳ヲ祝スル文、2 同答、3 若菜ヲ贈ル文、4 同答～39 出産ヲ祝スル文～52 高年ノ人ヲ賀スル文、53 同答」、用文目録終」。願届證文請取書之部：願書式・54 縁組送籍願～70 魚鳥〈問屋仲買〉開業願」、届書式・71 止宿人御届～88 乱暴人捕縛届、89 貿易品売込届」、證書式・90 金子借用證書～119 請取証」。

鼈頭熟語 イノ部～スノ部：上は67ウ、テ之部・…^{テオクレ}叮嚀まで、下は手後～醉狂スキキヤウ」まで。基本イロハ順排列に類語・類字を加える。(例：世渡ヨワタリ 世計、世道、世業、世活)。異名分類：人倫・儒者～妹」、人事・出生、死去～祭奠」、身體・頭面～心」、飲食・酒～米」、植物・蘭～芭蕉」、氣形・鶯～蛩」。

内題〈開化小學〉掌中漢語用文／三尾重定編述」、上欄は「熟語」。尾題：(上) 用文章終」(下) 諸書式畢」、上欄は「異称分類終」。(上) 74、(下) 49丁。刊記：明治13年12月4日版權免許、同年同月刊行發兌／神田区末廣町10番地・著者 三尾重定、日本橋区檜物町11番地・山岸佐吉」。

107) 朝野泰彦・＜新撰＞開化用文大成

中本 1冊

題簽：朝野泰彦編輯＜新撰＞開化用文大成 全。封面：紅色紙。「朝野泰彦編輯、梅澤義洲書／＜新撰＞開化用文大成全／發兌書林 玉山堂・玉海堂・正文堂合梓」。題辭「雁信」、ウに「安麻等夫也、可里乎都可比爾衣弓之可母、奈良能彌夜古爾、許答都礙夜良武、萬葉集所載」とアル。(巻15-3676)

次いで凡例(明治12年6月 朝野泰彦誌)があり、目録に続く。「＜新撰＞開化用文大成目録」：賀年始文、同復、嚴寒訊問文、同復～問水難文、同復…謝落宴文、同復とあり、末に「通計五十章、年中贈答及臨時吉凶音信」と記す。

願届証書類：願書、1養子加除籍願、2長男養子願…46祭日不參届、47徴兵年齢届」、証書、48借用金証書、49圍穀借用証書…75離縁状、76跡式讓状」。頭書目録：1書牘書換文字、2肩書之例…14売買取引心得、15郵便税則略」。目録畢」。内題：＜新撰＞開化用文大成／朝野泰彦編輯。(頭書は「書牘書換文字」)。尾題ナシ。伏票(＝跋)明治12年仲秋日 三書堂主人謹言」。128丁。

刊記：明治12年6月21日版權免許、同年9月30日出版、定価金50錢／編輯者千葉県平民・朝野泰彦・下総國香取郡香取村29番地、出版人 東京府平民・稻田源吉・日本橋区通式町目19番地、發兌人 東京日本橋通式町目・稻田佐兵衛、千葉県下総國佐原・朝野利兵衛」、ウ及び次丁オに、「東京并諸國發行書肆」として、東京・北畠茂兵衛～浅倉久兵衛の14名、東京として水野慶次郎～稻田政吉の16名を上段に挙げ、下段に西京永田調兵衛～遠藤平左衛門の5名、大阪柳原喜兵衛～岡島真七の6名、名古屋永樂屋東四郎以下3名、肥後熊本長崎二郎、水戸本町北澤安次郎～信州長野・小榊屋喜太郎、仙台國分町・菅原屋安兵衛の14名を列記する。

108) ＜鼈頭助字解＞成文軌範

中本 2卷2冊

濃紺表紙に花菱空押し。題簽：＜鼈頭助字解＞成文軌範 上(下)＜栗津道

慶編輯>」。封面：黄紙、「佐藤義光閱、栗津道慶編輯、版權所有、定価45銭／＜鼈頭助字解＞成文軌範全二冊／東京書肆・三書房蔵」。成文軌範叙（漢文体）：己卯(12年)10月蘭痴道人撰高竹山書」、例言五則、目次：上卷・春部 早春看梅附雪中探梅附新春偶吟～冬部賞雪、下卷・雑部 新年祝人初就官～喩、目次終」。内題：成文軌範卷之上（下）／佐藤義光閱、栗津道義編輯」。尾題：成文軌範卷之上（下）終」、上68、下52丁+奥。刊記：明治12年10月21日版權免許、同11月出版、定価45銭／編者 東京府平民 栗津道慶・神田区、同 稲垣武八・日本橋区田所町11番地、同 小林喜右衛門・同区新大坂町10番地、同 鈴木勘次郎・本所区元早13番地」。頭書に「鼈頭助字解」。

109) 檜寄隆存・増補開化用文章

中本 2巻2冊

濃紺表紙。題簽：＜檜寄隆存著述＞増補開化用文章 上（下）。封面：桃紅色、檜寄隆存編輯／＜増補＞開化用文章＜画入替文附＞／明治14年9月新刻三書房蔵梓」。題辭の後、見開きで浪早三書堂の店先の図アリ、本書の掛札あり。凡例：明治14年9月 編者しるす。増補開化用文章目次：卷之上 祭日部～慶賀門、卷之下 医者を招く文…問慰部～雜纂部」。上段：作文雜語伊ノ部 意外ノ御馳走、意外御無音申上候～コノ部、（卷下）てノ部～すの部」、好、透問…数盃、数献、郵便規則畧、電信取扱規則」。挿絵アリ。内題：増補開化用文章卷之（ママ）、卷之下／浪華檜寄隆存著、尾題：増補開化用文章卷之上（下）大尾」。刊記：明治14年8月28日出版御届、同年9月出版刻成／著述人 大阪府平民 檜寄隆存・西成郡上福島村808番地、出版人同 岡田藤三郎・東区本町4丁目52番地、同 濱本伊三郎・西区京町堀通2丁目32番地、同 中野啓蔵・東区内本町1番地」。

110) 飯沼守一・＜鼈頭類語＞開化普通用文章（外）

半紙本 1冊

封面：桃紅色。飯沼守一編輯／＜鼈頭類語＞開化普通用文章／尾張・東壁堂

蔵版」。

序：漢文体（明治22年2月）、目録：開化普通用文章／作例目録 年始之文、同答文～花卉ヲ贈ラルニ答ル文、口上之文、送り並ニ受取書」、諸証文、諸届之部、諸願之部」、頭書之部：用文章類語、熟字早引集」、開化普通用文章目録終」

内題：開化普通用文章、頭書：用文章類語」、尾題：開化普通用文章終」。柱刻：書名と丁付。142丁＋奥。刊記：明治22年12月14日印刷、明治22年12月15日出版／発行兼印刷人名古屋市玉屋町3丁目2番地・片野東四郎、著作人名古屋市西脇町267番戸・飯沼守一」。頭書：用文章類語・新年、年始、改年…送り並ニ請取之文、諸証文、諸願届之部（出板届、板権登録願、離縁願、荒地開墾願、小屋掛興業願等アリ）。108ウからの「書簡早引集」はイロハ分け。イ之部：一筆啓上～ス之部：…（スキハビ）活計、（スイケウ）酔興」。
＊小泉吉永「往來物解題辞典」（2001年3月）に明治13年版を立項。

111) 飯沼南厓・＜鼈頭類語節用千字文＞新體普通用文章（封）

半紙本 1冊

封面：朱で飾り枠。「飯沼南厓先生書／＜鼈頭類語節用千字文＞新體普通用文章／版權所有二書房蔵梓」。「新體普通用文章序」（漢文体・南厓漁人撰）。「新體普通用文章目録」：年頭之文、同返事…博覽會誘引之文…長壽ノ人ニ染筆ヲ頼ム文…転隊ヲ報スル文…物価ノ騰貴ヲ報スル文…払下金取ニ遣ス文、口上之文、送り並ニ請取之文」、諸証文類、諸願届類」。

頭書之部：熟字イロハ引、カタカナ両点形式で、左傍に語釈。イ部 一系、一統～スノ部…一（酔）歌エフテウタフ、帥師ゲンセイヲヒキツレル」。祝文類：天皇陛下歡迎ノ文…図書館開館式ノ祝詞…遠征ノ軍人帰郷ノ祝文」、千字文、鳥獸名、魚介蟲名、穀菜名、果樹名、草木名」。新體普通用文章目録終」。内題：新體普通用文章」。尾題：新體普通用文章終」、頭書終」。柱刻：書名と丁付。168丁。

刊記：明治29年9月29日印刷、明治29年10月10日発行／版權所有／編纂者 稲塚伊三郎、発行者 名古屋市玉屋町29番戸・片野東四郎、発行兼印刷者名

古屋市玉屋町29番戸寄留・後藤房雄、発行所 名古屋市本町通8丁目・東壁堂」。

以上管見に入ったものを列挙してきたが、この手のものは色々ある。例えば112) 松齡仙吏編「＜自修速成＞東京新用文」(明治34年1月、東京・國華堂書房、B6判活版1冊。全182頁+奥。前半の101頁は用文章・証文。93頁まで3段組、以下2段組。祝辞門、吊文門、記事門、記事論説文：遊紀門、書門、説文門、論文門、記戦門、傳論賛門、雜文例(…角力見物誘引之文…鉄道敷設願書連印通牒…夜学生募集之文…橋梁架換協議之文…地震見舞之文、全返事、親睦会回章之文)、雜証文例(金子借用証、月賦借入金之証…雇人請書、入塾証)。後半の70頁は「＜いろは引＞作文新字典」。有界9行。威儀リッパナキヨフギ、威権イカフケンペイ、威光ツヨクヒカリ～出納ダシイレ、睡眠ネムル。表紙に副題として「作文いろは字引」とアリ。113) 教育散士「＜新選作文＞開化用文」(明治24年6月、東京・神田松衛、中本鉛版1冊、3+30丁。前付に目次のほか英字字体表、新曆年中季候の辨、手簡往復自他の称、龍頭に「＜頭書＞漢語獨學」(イロハ順：一新あらたになる、一定ひとつにさだまる、一變ひとかわり～衰微おとろへる、數學そろはんのけいこ、隨意きまゝ)アリ。114) 露村政子「明治女用文章」中本1冊。3+48丁まで鉛版、末に活版で「小學女禮式」(起居進退～飲食程儀、附録)アリ。明治22年9月23日、東京・杉本書店杉本七百丸。頭書に「いろは早引みやび詞註」アリ。等を挙げることが出来る。ひとまず今回はここまでとする。

